之ヲ親族會ニ一任スルヨリモ適當ナラント信ス

拋擲者ナル後見人ノ上ニ後見管理者ヲ設置スル事ハ大ナル錯雜ヲ招ク事有ル可キ不適當ナル方法ナリ況シテ此ノ管理者ノ行爲、其後見人並ニ公衆ニ對スル地位ニ關シテ明言スル所ナキオヤ

第二百七十四條ハ第二百六十六條ニ從ヒ前置條例中ニ之ヲ掲載スル事適當ナラン

第二百七十五條ニテハ裁判所構成法ノ成規ニ從ヒ地方裁判所ニ非ラスシテ區裁判所ニ其權限ヲ與ヘサル可カラス而シテ檢事局ヲシテ此事件ニ立入ラシムル事ハ實際上其目的アラサルナリ

第二章ノ副後見人ハ佛國民法ノ成規ヲ轉載シタルニ過キサレトモ此ニ第四百二十四條ヲ本草案ノ第二百八十一條ト分離シテ第三百三十七條ヲ本草案ニ採用シタル事ニ關シテハ先キニ四十八頁ニ論シタル所ヲ參照ス可シ

第三章ノ親族會議ニ關スル規定ハ大体ニ於テ佛國民法第四百七條第四百八條第四百九條第四百十條第四百十二條第四百十三條第四百六條第四百十一條第四百十四條第四百十五條第四百十六條ヲ轉載シタルニ過キス又第三百二條ノ效果ハ余ニ於テ之ヲ認ムル事能ハサルヲ以テ一層嚴重ニ明言スル事適當ナラン將タ婦モ亦親族會員トナル事ヲ得ヘキヤハ實際上曖昧ナリ殊ニ第二百九十九條以下ノ成規ハ實際上顧ル疑團アリ（此等ノ成規ハ佛國民法ニ掲載シ有ラサレトモ多分白耳義草案ニ存スルナランカ）

第四章及ヒ第五章ハ第二章ニ直接ニ附從セサルヤ不都合ナリ佛國民法第四百四十條ニ從ヒテ本草案ニ採用シタル第三百七條第三百八條ニ於テ親族會ニ任セタル職務ハ之ヲ後見裁判所ニ任カス事適當ナラン

第五章ハ（佛國民法第四百四十二條乃至第四百四十九條ニ照應シ

）國家ノ監督權ノ一部分ヲ親族會トノ訴訟ノ体裁ニテ顯ハサシメ親族會ハ事物ノ情況ニ從ヒ始審裁判所ニ出訴シ其裁判ニ對シテ控訴院ニ控訴セサル可カラサルモ裁判所構成法ニ依レハ區裁判所ニテ第一審ノ裁判ヲ爲シ此ノ裁判ニ對シテ始審裁判所ニ控訴スル事ヲ許セリ

第六章　後見人ノ管理

第三百十四條

總テ選定セル遺囑上ノ後見人ナルト法律上ノ後見人ナルトヲ問ハス各後見人ニ任設狀ヲ付與スル事適當ナラン斯ノ如キ任設狀ハ何レノ場合ニ於テモ資格ヲ證明スル爲メ必要ニシテ其付與ハ同時ニ裁判上ノ方法ニテ公衆ニ對シ後見人ナリト看做サレタル時期ヲ表スルモノナリ將タ遺囑上ノ後見人ヲ設定シタル人ノ最後ノ意思カ成立セシヤ或ハ除斥原由ノ存セサリシヤハ後見人ニ對シ確定セス

裁判上ノ任設ハ始テ此ノ點ニ關スル疑察ヲ除キ隨テ頗ル緊要ナル證書トナル可シ此任設狀ニ依レハ被後見人ノ氏名並ニ出生年月、後見人及ヒ副後見人ノ氏名ハ判然シ親族會ノ成立スルヤ否ヤモ明瞭トナル可シ

遺囑上ノ後見人及ヒ法律上ノ後見人ヲシテ其招集ヲ以テ既ニ行爲ヲ始メシムルハ不必要ニシテ不適當ナリ卽チ裁判上ノ任設狀ハ後見人タル行爲ノ普通ノ要件タラサル可カラス若シ國家ノ監督ノ必要アルトキハ裁判所ニテ本人ノ法律上ノ要件ニ相應セルヤノ心證ヲ得サル前ニ後見人ヲシテ管理ヲ引受ケシムル事ハ國家ノ監督ヲ最初ヨリ拒絕シタルモノト云ハサル可ラス加之裁判上ノ任設アラサル限リハ未タ其實際稱名セラレタル者カ行爲ヲ爲スヤ確定セサルナリ蓋シ祖父ハ遺囑上ノ後見人ニシテ母方ノ祖父ノ信用スルモノト設定セラレタルヤヲ知ラサル可シ又法律上ノ後見ニ付テ

ハ法律上ノ抵當ニ於ケルト等シク任設ノ名義ノ存スル限度ニ於テ之ヲ許サヽル可カラス

之ニ反シテ後見人ノ裁判上ノ任設ノ結果トシテ本人ノ人トナリニ關スル保證ヲ得タル後ハ本草案ニ於ケル如ク其管理ヲ狹隘ナラシム可カラス故ニ封印ノ實行及ヒ目錄ノ作成ニ關シテハ適宜ノ注意ヲ加ヘサル可カラス此ノ二件ハ總テノ場合ニ於テ必シモ緊要ナルモノニ非ラスシテ情況ニ從ヒテハ關係人ノ利益ニ反對スル事有リ

第三百十九條

第三百十九條ニ依レハ後見人ハ封印ノ開放ヲ爲サシメサル可カラサルモ何レノ場合ニ於テ其封印ヲ行ヒタルヤヲ論セサルナリ

如何ナル情況ニテモ目錄ハ調製セサル可カラス其遺囑ニ依レハ調製ノ釋免ハ不成立ト看做サヽル可カラス是レ實ニ本草案ニ從ヒ目錄ヲ同時ニ公ケニスル事ヲ求ムル場合ニ於テ個願ノ處置ナリ（第

日本學術振興會

三百二十三條以下）若シ遺囑者カ目錄ノ公製セラルヽ事ヲ禁シタルトキハ兒子ノ爲メニスル注意ニ付キ其必要ナルカ或ハ善良ノ風俗カ斯ノ如キ處分ノ承認ニ反對セリト主張スル事ヲ得ス乃チ法律上ノ地位ヨリ見レハ自己ノ財產ノ寄贈ヲ制限セラレサル遺囑者ヲ斯ノ如キ處分ニ付キ制限スル事ヲ得ス若シ遺囑者カ其子ノ善良ナル評議者ニシテ目錄ヲ公製スル事ヲ禁シタルトキハ之ヲ遵守セサル可カラス殊ニ商業上及ヒ工業上ノ社會ニ於テハ遺囑者ノ斯ノ如キ處分ハ頗ル緊要ニシテ其處分禁止ハ後見人ノ利益ヲ害ス可シト最初ヨリ明言セサル可カラス目錄ヲ公製スル事ヲ釋免スルノ必要ナル結果ハ當該遺產ニ關スル計算ノ釋免ナリ

斯ノ如キ場合ニ於テハ後見人ヲ審訊ス可キ特別ノ理由ニ依リテノミ後見裁判所ハ目錄ノ包有事項ヲ認知スル事ヲ得

第三百三十條

日本學術振興會

第三百三十三條以下ニテハ再ヒ裁判所構成法ノ趣旨ニ戻リ且ツ不適當ナル方法ニテ地方裁判所ヲシテ親族會ノ議決ノ認可ヲ爲サシノタリ

第三百三十六條ニ關シテハ先キニ第二百五十二條ニ關シテ論シタル所ヲ參照シ又第二百三十七條ニ關シテハ第二百八十一條ヲ參照ス可シ

第三百三十八條

蓋シ後見人ニ付キ副後見人ヲ任セシムル事ヨリモ後見人ノ利益ト未成年者ノ利益ト抵觸セル場合ニ於テ副後見人ヲ任セシムル事ハ簡單ニシテ尙ホ未成年者ノ利益ニ適ス可シ

第三百四十條

本條ニ關シテハ先キニ第二百五十二條ニ關シテ論シタル所ヲ參照ス可シ又第三百四十一條第二項ニテ後見人ノ承繼人ノ負擔タル義務ハ甚シク廣汎ニ過クルヲ以テ疑團アルカ如シ其承繼人ハ猶豫ス可カラサル行爲ノミニ付キ實行ノ義務ヲ負ヘシムル事ヲ得狹ニ死亡ノ通知ノ如キハ後見ニ豫リタル人ニ其任ヲ負ヘシノサル可カラス

第三百四十二條

凡ソ職ノラレタル後見人カ後見人ノ新任アルマテ依然トシテ行爲ヲ爲ス可キ事ノ規定ハ行フ可カラサル事ニシテ且ツ自家矛盾ナルカ如シ何トナレハ其職ノラルヽ事ハ無能力怠慢或ハ不適用ノ如キ惡シキ證據ニ依リテ爲サルヽヲ以テ斯ノ如キ理由ニ因リ特ニ職ノラレタル後見人カ尙ホ繼續シテ其職務ヲ執ル事能ハサレハナリ若シ後見人ノ交代ニ際シ無後見時間ノ存スルカ或ハ後見人カ其義務ヲ履行スル事ヲ一時妨ケラレタルトキハ假處分ヲ設クル事ハ後見裁判所ノ任ナリ

日本學術振興會

第三百四十五條

本條ニ關シテハ先キニ目錄ノ公製ニ關シテ論シタル所ヲ參照ス可シ其他親權ヲ有スル者ノ任シタル後見人ノ計算實行ニ係ル義務ヲ免セシムル事ヲ其親權ヲ有スル者ニ拒絶スル事能ハス

第三百四十七條

三ヶ月ノ期間ハ極端期限トシテハ長キニ失スルカ如シ

又其期間ノ延引ニ關スル救判ヲ實際ノ關係ヲ知ラサル地方救判所ニ任カス事ハ全ク不適當ナリ

第三百五十二條ニ關シテハ後見人ニ依レル擔保債行爲ニ關スル效果ヲ示シアラサルカ如シ

第十章　未成年者ノ自治（後見免除）

第三百五十三條

本條ノ規定ハ第百九十六條ニ關シテ適當ナラス

第三百五十四條

茲ニ未成年者カ十五歳ヲ以テ親權ヲ免カレ兩親ナキ未成年者カ十八歳ヲ以テ後見ヲ免カルル如ク佛國民法ニ模倣シタルハ不幸ト謂フヘシ（佛國民法第四百七十七條第一項第四百七十八條第一項）佛國民法ノ此區別ハ適當ナルモノニアラス卽チ此規定ハ十五歳ノ未成年者カ親權ヲ免ルヽ事ヲ他ヨリ試ムル事ヲ得ル程ニ其兩親ニ拘束セラルヘシトノ觀察點ニ基ケリ

然ルニ此事ハ其未成年者カ未タ獨立シテ行爲ヲ爲スノ能力ヲ有セスシテ其兩親ノ補助ヲ要スヘキ事ノ默示ノ自認ヲ包藏含セルモノナリ依テ右區別ノ不適當ナル事明然スヘシ何トナレハ獨立シテ自

己ノ事務ヲ管理スル事ヲ得ヘキモノヽミ自治ヲ許サルヽレハナリ而シテ之カ能力ヲ有シ法律ニ從ヒ何時ニテモ其生存セル父ヨリ自治ヲ許サルル事ヲ得ヘキ十五歳ノ息子カ其間ニ兩親ノ死亡シタルカ爲ノ二ケ年間自治ヲ許サルル事能ハサルハ何ソヤ又兩親カ自己ノ生活ニ關シ子供ヲ十五歳ニ至リ自治ヲ行ハシムルノ法律ハ其兩親カ尚ホ三ケ年間生存シテ法律ニ從ヒ兩親ナクトモ獨立シテ事務ヲ管理スルノ能力アリト認ノラレタル場合ニ於テ如何ナル擔保ノ存スヘキカ○若シ十五歳ノ子供ノ自治ヲ許シタル後其兩親カ其後ノ三ケ年間ニ死亡シタルトキハ法律ハ不正ニ適用セラレタル事勿論ナリ依テ立法者ノ地位ヨリ見レハ未成年者ノ年齢ノ區別ニ付キ（親權ノ下ニ於ケル未成年者ト兩親ナキ未成年者ト）他ノ理由存セサル事勿論ニシテ殊ニ父又ハ母ハ自治ノ實際上ノ結果ヲ其擧行ナクトモ完全ニ意超スル事ヲ得セシノ卽チ兩親ハ獨立スルニ充分ナリト認ノタル場合ニ於テ其子供サシテ自由ニ處置セシムル事ヲ得故ニ總體ノ未成年者ニ付キ彼ノ兩親ナキ未成年者ノ爲ノニ定ノタル十八歳ヲ以テ自治年齢ト定ノサルヘカラス

之ニ反シテ佛國民法ト異ナリタル自治實渡方式ニ於ケル區別ハ理由ナキモノニシテ身分取扱官吏カ何ノ爲ノニ此ノ如ク爲スヤヲ察スル事能ハス卽チ身分取扱官吏ハ人民ノ行爲能力ノ如何ニ付キ利害關係ヲ有セスシテ治產禁、後見其他行爲能力ヲ制限スル狀況ヲ登記セサルナリ何レノ場合ニ於テモ唯一ノ管轄官廳卽チ區裁判所ハ管轄權ヲ有スヘシ（第三百五十七條）

若シ親族會ノ成立スルトキハ之ヲ審訊スヘキモ其他ノ點ニ至リテハ後見裁判所ハ兩親ナキ未成年者ノ自治ニ關スル裁判ニ付キ管轄權ヲ有セリ

第三百五十八條

日本學術振興會

本條ノ規定ハ此ノ如ク一般ノモノトシテハ父若クハ母又ハ夫ノ爲メノ之ヲ適用スル事ヲ得ス是等ノ者ハ其意思アル限リハ此ノ如キ義務ヲ免カルル事能ハサラン

第三百六十條

本條第二項ニ關シテハ前キニ論シタル所及ヒ第三百六十三條ニ說述シタル處ヲ參照スヘシ

愛ニ佛國民法第四百八十七條ノ如キ規定ヲ自治ノ未成年者ニ關シテ設クル事適當ナラサラン此草案其全体ニ於テ商事ニ立入ラサラント欲スル事ヲ明言シタル所ナシ然レトモ實際上ヨリ見レハ是等ノ點ニ關シ營業、就職、勞役、實行等ニ依リテ事實上全ク兩親若クハ後見人ト關係セサル事實上獨立ノ未成年者ノ行爲能力ニ關シ二三ノ成規ヲ設クル事必要ナリ

第十一章　禁治產

愛ニ佛國民法第四百八十九條第四百九十條第五百三條第五百二條第五百五條乃至第五百十一條第五百十二條第五百十三條第五百十四條卽チ民事上禁治產、準禁治產、刑事上ノ禁治產及ヒ瘋癲者ノ假管理ヲ參照スヘシ

彼ノ瘋癲者ノ民事上禁治產、浪費者心神喪失者ノ準禁治產等ノ區別ハ甚タ不分明ナルモノナリ浪費者ニ付テハ羅馬法ハ「インテルジセーレ」ナル語ヲ用ヒタルモ佛國民法第五百十三條ハ「イル、ビユー、エートルデフアンド」云々ト謂ヒ伊國民法第三百三十九條ハ「ポトランノ、エツセーレ、ジシヤルデ、インアビリ」ト謂ヘリ是等ノ言語ハ制限セラレタル禁治產ノ裁判上ノ言渡ヲ以テ要件ト爲シタルモ此草案ニテハ之ヲ要件トセスシテ單ニ管財人ノ支配ヲ受クル事ヲ得セシメタルノミ

又此種類ノ禁治產ニ依リテ管財ヲ生セシメ心神喪失者ノ禁治產ニ

日本學術振興會

依リテ後見ヲ生セシムルハ適當ナラス今心神喪失者聾唖者、盲者浪費者ヲ行爲能力ノ點ニ關シ管財人ヲ得タル禁治産ノ未成年者ト等視セシムル事ハ適當ナラサルカ如シ抑々禁治産ノ未成年者ハ純然タル管理行爲ニ關シ制限ヲ受ケスシテ浪費者ハ恰モ其管理ニ依リ金錢ヲ消費シ盲者、聾唖者、心神喪失者ハ自己ノ財産ノ管理ニ付キ補助ヲ最モ必要トスルモノナリ余ハ此理由ニ依リ準禁治産ヲ削除シテ之ヲ民事上ノ禁治産ノ部ニ配置スルヲ便益ナリトス

如何ナル狀況アリトモ此ノ如キ心神喪失者盲者聾唖者ヲ管理無能力ナリト看做シ後見ノ請求ヲ之ニ對シテ拒絶スル事適當ナラス本草案ノ管財ニ付キ模倣シタル佛國民法ノ「コンセーユ、ジユジシエール」ハ甚シク缺點アルモノナリ

第十二章　戸主及ヒ家族

遂ニ愛ニ日本ノ一種ノ法制タル家督相續ヲ掲ケタリ

抑々法律上ノ包有事項ナキ空缺ノ一家カ如何ナル效力用ヲ有スヘキヤ此第十二章ハ一トシテ法則タルモノヲ掲載スル事ナシ蓋シ一家ニ屬スルモノヽ權利關係、戸主ノ權利、家族ノ權利等ニ關シテ第十二章ニ論シタル所ハ毫モアラサルナリ

第十三條ノ第四百三條ニ依レハ前戸主ノ戸主ノ相續人ハ其住所ヲ有シ家族ヲシテ之ニ共住セシムル事明白ナルモ此ノ如キ曖昧ナル法則タルカ爲メ戸主及ヒ家族ノ法制ヲ保持スル事ヲ得ス

實際上ノ點ヨリ見レハ此制度ハ本草案ノ血族ノ分度、親權ノ下ニ在ル家族、兩親ナキ未成年者ニ干渉スル後見ノ制ト最早適セサルモノノ如シ將タ一家ナル意義ヲ戸主及ヒ家族ノ一定ノ權利及ヒ義務ヲ包含スル法律上ノ定義トシテ（封建制ノ消滅シタル後）實行セシムル事ハ疑團アルカ如シ

第十三章　住所

日本學術振興會

余ハ法律上ノ住所ノ規定アルヲ見ス將タ第四百三條乃至第四百六條ニ論シタル戸主ノ一家ニ於ケル住所カ法律上ノ住所タルヘキカ然ラハ之ヲ第一ニ明言シ之ヲ實際上法律上ノ住所ト爲ササルヘカラス第四百六條ニ依レハ一家ハ法律上推定セルモ法律上ノ住所ニアラスシテ卽チ住所設定者ノ許可ナクシテ隨意ニ住所ヲ定ムル事ヲ除斥セル所ノ新法典ノ意義ニ於ケル法律上ノ住所ニアラサルナリ殊ニ第四百六條ニ依レハ各家族ハ何時ニテモ家族タル事ヲ廢ムル事ヲ得本草案ノ法律上ノ住所ハ一般ニ法律上ノ意義ニ基ケルモノニアラスシテ偶然ナル滯在所タルニ過キス今法律上ノ住所ノ想像ハ一ノ狀況卽チ身分取扱官吏ヘノ通知ニ依リテ著シク確定シタルモ此通知ハ交換ニ基因スルモノナリ住所ハ身分ト毫モ關係ヲ有セスシテ一家ニ屬スル事ハ毫モ他ノ法律上ノ包有事項ヲ有セス依テ警察ニ代リテ身分取扱官吏カ如何ニシテ通知ヲ取扱フヘキカ

第四百八條乃至第四百十條

第四百八條乃至第四百十條ハ彼ノ無用ニシテ錯雜ヲ招クヘキ撰定住所ノ制ヲ此草案ニモ採用セシムル モノナリ此制度ハ本人ヘノ一定ノ送達、賃渡等ヲ一定ノ場所ニ對シ行フ事ヲ得セシムルノ效果ヲ有スルニ過キスシテ他ノ點ニ於テ住所ト關係セサルヲ以テ一私人ノ隨意ニ於ケル此ノ如キ權利ヲ法律上規定スル事ヲ必要トスル限リハ之ヲ民事訴訟法送達及ヒ呼出ノ部ニ揭載シ又ハ住所ヘノ送達等ヲ載セシムル事ヲ規定スル法律ニ之ヲ揭載セシムヘシ尤モ尙ホ「債權者ノ撰擇ニ從ヒ當事者ノ此目的ニテ約束シタル場所」ナル語ヲ追加スルヲ要ス是ニテ撰定住所ノ包有事項ハ全ク盡キナン

第十四章　失踪

佛國民法第百十五條第百十二條第百二十一條第百二十條第百二十六條第百十五條乃至第百三十八條ヲ參照スヘシ

日本學術振興會

惜シイ哉此簡單ナル失踪管理者ノ制度ハ佛國民法ニ模倣シテ檢察官ノ前ニ於ケル對審手續ノ實施ニ依リテ甚シキ錯雜ヲ來サシノタリ

第四百十二條ハ此所ニ屬スルモノニアラス若シ或ル人カ總括代理人ヲ設定シタルトキハ政府ハ失踪者カ委任及ヒ全權ヲ成立セシムヘシト認ムル間ハ之ニ注意スルニ及ハサルヘシ若シ此所ニテ失踪管理ノ制度ニ係ル要件ヲ明言セント欲スルトキハ其箇條ヲ改編セサルヘカラス

第四百十七條

本條ハ之ヲ斷定スル事ヲ得ス卽チ婚姻契約ノ部ハ未タ余ニ提示セラレサレハナリ

第四百十九條

本條ニ關シテハ前ニ論シタル所ヲ參照スヘシ

日本學術振興會

例ヘハ失踪者カ自己ノ代理人ヲ設定スルニ際シ六个年又ハ其以上ノ失踪ヲ見込ミタルトキハ失踪管理ハ之ヲ設クヘカラス第四百十九條乃至第四百二十三條ハ民事訴訟法ニ屬スルモノナリ

第十四章ノ表題ハ不分明ニシテ佛國民法ニ如カサルヘシ

第十五章　身分證書

此證ニテハ常ニ佛國民法ノ箇條ヲ對照シタルモ其對照ハ往々誤リアリ

事物上ヨリ見レハ此證ニ關シテ論スル所ナシ卽チ此成規ハ重モニ公ケノ性質ヲ有シ特別法ニ屬セシムル事便益ナルニモ拘ラス之ヲ民法典中ニ採用セント欲スル限リハ敢テ論セサルヘシ

只第四百七十八條第二項ニ關シテ論シタキ事アリ是他ナシ身分取扱官吏カ緣組ノ認可セラレサル事ヲモ登記セサルヘカラサル事ノ余ニ於テ解シカタキ事是ナリ之ヲ要スルニ婚姻ノ如ク身分取扱官

日本學術振興會

吏ノ管轄ニ屬セサル裁判上ノ記錄ニ對シ身分證書ヲシテ例ヘハ第四百七十八條第二百十七條ニ從ヒテ有スヘキ效果ヲ有セシタルハ疑團アリトス

ルードルフ氏

民法草案第三編ニ關スル意見

完

日本學術振興會

第一章　相續法

第千五百一條

第一項ニ依ルニ總合物ヲ以テ目的物トスル生存者間ノ贈與及ヒ會社ノ止息ノ如キ特定名義ヲモ包括名義ノ内ニ含マシムルカ故ニ其ノ包括名義ヲ解スルヤ甚タ廣博ナルカ如シ

次テ論スヘキ法典ニハ此ノ如キ規定ヲ揭クヘキモノナルヤ寧ロ是レ教科書中ニ載スヘキモノニ非サルカノ一事ナリ

第二項ニ至テハ未タ第千百一條ヲ見サルヲ以テ可否ノ論ヲナス事ヲ得ス

第千五百三條

此條ハ法規ニ非スシテ目錄ノミ要スルニ無用ナリ

第千五百八條

日本學術振興會

第二條ト比較スルニ此條ノ「若クハ」以下云々ハ適正ノ構文ニ非ス

第千五百二十五條

當ニ「法律上ノ」(レカール)ノ相續ト稱スヘシ

第千五百三十五條

「數多ノ」ニ代フルニ「二家以上」ヲ以テスヘシ

第千五百七十六條

遺囑相續ヲ以テ單ニ法定ノ相續部分ヲ詳定スル事ナリト解スルハ其義狹隘ニ失スルカ如シ蓋シ遺囑相續ナル者ハ其本義ニ於テモ事ノ實際ニ於テモ法定ノ相續部分ニ毫モ關係ナシニ之アリテ妨ナシ家主ノ存セス若クハ法定相續人ノ存セサルトキ卽チ是ナリ

第千五百八十一條「其生存ノ時ヨリ」ト云ヘスシテ「其生存中」ト云フハ解ス可ラス

第千五百八十三條「ふ。ぃ。ぇ」ト云ハスシテ「ふ。ぃ。ゔ。ぇ」ト稱スヘシ

第千五百八十四條

第六號乃至第八號ハ一ハ動產ノ手續ヲ定ノ一ハ其方式ヲ定ムルモノナレトモ其方式ト稱スヘキモノハ玆ニ唯一アルノミ(卽チ第六號)尙他ニ依ルヘキノ方式アリ而シテ第二號ノ規定ニ至テハ諸般ノ遺意ニ於テ每ニ存セサル可カラサルノ要件ヲ再揭スルモノナリ

第千五百八十五條

第二項ハ少ナクトモ不明瞭ナリ宜ク「家督ハ法律上代人ニ依リテモ之ヲ保持スルヲ得ス保持セサル可カラス」ト改ムヘシ

第千五百八十六條以下數條

地方數判所認可ノ事ニ關シテハ先キニ述ヘタル意見ヲ再閲アレ

其次ノ數條ハ又手續ノ性質ヲ有スルモノニシテ宜ク民事訴訟法ニ

日本學術振興會

屬スルニ非サレハ無効裁判ニ關スル特別法律ニ屬スヘシ

第千五百九十七條及ヒ第千五百九十八條

新規分派ノ強要ノ方法ヲ定ムル事此兩條ノ如クナルハ經濟上多ク

ハ實行ス可ラスシテ又常ニ危險スヘキモノアリ

且夫レ第千五百九十七條ニ徵シテ之ヲ考フルニ此場合ハ其實包括

名義ニ關セサルモノニシテ唯其時迄ニ生シタル個々相異ナル財產

上ノ權利義務而カモ其權利義務モ唯辭產者ノ人體ト不可分ニ結着

セサルモノトミノ轉付ニ關スルモノナル事ヲ知ルヘキナリ此ノ如

キ取得ノ方法ヲ相續ト比同スルハ（第千五百九十二條）素ヨリ過

マレリ若シ之ヲ實行セハ大ニ不都合アルヤ得テ避ク可ラス蓋シ死

者相續ノ包括ナルハ其財產法上ノ關係ノ轉付シ得ヘキ限リ相續人

ノ之ヲ引受クルニ在テ存スルトモ此場合ニハ正ニ此要義ヲ缺キテ

辭產者ハ尙生存シ其財產法上ノ人體ハ滅失スル事ナク其人體ニ不

可分縣ニ附着スル權利義務ハ存立シ新權利新義務ハ尙之ヲ取得ス

ルヲ得ヘク其身ノ未タ曾テ一個財產ノ中樞タルヲ失ハサルナリ辭

產者財產法上ノ人體既ニ此ノ如シトセハ其辭スル財產ハ是レ統一

ノ總括ナキ雜多ノ權利ノ團塊ノミ之ヲ辭シテ他人ニ移スモ以テ之

ヲ相續ト比同スヘキニ非ス又一般ニハ其實際上ノ必要モ存スル事

ナシ辭產者辭產ハ後尙財產ヲ取得スルヲ得ル事故ノ如クンハ何ソ

辭產ナルモノヲ要センヤ然ラハ則チ其必要ハ必スヤ唯一人體ノ人

体ニ代補セラルヽヲ要スル特別事情ノ存スルアリテ始ノテ之アル

ヘキノミ是蓋族ノ一家代表ノ場合農商工其他ノ業務ヲ經理スルノ

場合等ヲ云フ卽チ此ノ如キ一團ノ包括財產アリテ然ル後亦能ク包

括ナル權利承繼ヲ生スヘク從來ノ持主全ク謝シテ他人之ニ代ハル

事ヲ得ヘキナリ其他ノ場合ニ至テハ生存中ニ於ケル包括ノ權利承

繼アルヘシトモ思ハレス又法律上其權制ヲ立ツルノ必要アル事ナ

日本學術振興會

シ若シ強テ之ヲ構成セハ法律上ノ不明ト經濟上ノ困難ヲ來タスヘシ故ニ右等ノ場合外ニ於テハ寧ロ特定相續ノ原則ニ因ルヲ可ナリトス又其生存中分派シタル物ニ關シテハ均分（コラチオン）義務ノ原則ヲ用フヘシ

第千六百十三條第千六百十六條第千六百二十六條第千六百三十四條第千六百三十五條第千六百四十四條第千六百五十八條此等ノ條々ニ於テモ亦「地方裁判所」ニ代フルニ「區裁判所」ヲ以テスヘシ

第千六百十七條乃至第千六百二十四條

此條々ニ定メタル限定相續ノ清算手續ハ亦民法ニ屬スヘキモノニ非スシテ訴訟法等若クハ無訟裁判ニ關スル特別法律ニ屬スヘキナリ

第三款　相續ノ拋棄

第千六百二十五條以下

此款中ニハ尚一層簡短ニ改ムヘキノ規定ナシトセス卽チ第千六百二十五條第二項第千六百二十六條第一項ノ如キ是レナリ、凡ソ拋棄ハ推定ヲ以テ決スヘキモノニ非サルナリ然ルニ何故ニ特ニ相續ノ拋棄ニ關シテ其旨ヲ揭クルヤ若シ玆ニ之ヲ揭クレハ他ノ場合ニハ其推定ヲナシテ可ナリト誤想セシムルニ至ルノ悉アリ

又第千六百二十七條ノ第二項ハ其相續人ノ人違ヒニ非サルヿヲ確カメシムルノ規定ナルカ如シ然ラハ則チ其特別代人ニ關シテモ亦然カセシメサル可カラス其公正文書ノ如キハ代人ノ受任權ヲ證スルモ其人違ニ非サル事ヲ證セサルナリ

第千六百二十八條ニ採用セラレタル佛國民法第七百九十條ニ關シテハ此ノ如キ方式ヲ要スル拋棄ニシテ之ニ付スルニ廢除ノ效力ヲ以テスル事ナク則チ他ノ相續人其相續　手ヲ着ケサル間ハ其拋棄

日本學術振興會

ハ何等ノ效果モアラサル事是レ常ニ疑訝ニ堪ヘサル所ニシテ決シテ其當チ得タリトハ思惟スルチ得ス且第千六百二十五條ノ第二項アルカ故ニ其場合ニシテ一タヒ生スルトキハ大困難チ醸スヘシ今夫レ甲ナル者初ノ其相續ニ關シテ自己ノ利益ノタメニ處分チナシタルモ後遂ニ之カ有效ノ拋棄チナシ（同條ノ第二項ハ實ニ此ノ如クナルチ許スモノナリ）タメニ右ノ處分ハ皆其效力チ失フタリ既ニシテ甲又其思チ一變シテ更ニ相續ノ受諾ニ及ヒタリ（第千六百二十一條）トセンニ此場合ニ於テ右失效ノ處分ハ果シテ如何ナル結果チ生スルヤ察スルニ出來ヘクンハ其效力チ回復スルナルヘシ然レトモ斷然相續ノ拋棄チ以テ廢罷ス可カラサルモノナリトシテ右ノ遷轉常ナキニ代フルハ經濟上望マシカラサル事ニハ非サルカ

相續人缺ノ相續（第千六百三十三條）ニ至テハ裁判所ノ處分ノ用廢チシテ相續人ノ氣向如何ニ拘ハサシノサルカ故ニ寧ロ其宜チ

得タリトス然レトモ裁判所ノ處分ニ關スル規定ハ亦民法ニ屬スルモノニ非サルナリ

相續ノ拋棄并ニ契約相續ニ關シテハ玆ニ其規定チ見ス

第千六百二十九條

此條ニ於テモ亦暴行脅迫詐欺無能力ノ故チ以テ他人ノ所爲チ攻爭スル事チ得ル普通原則ノ適用アリ此ノ如キ普通原則ハ必スシモ獨場合ノミニ限ラスシテ每々之チ反覆スルノ勞チ執ラサルチ得ス然ラスンハ一ノ通則無チ設ケテ其中ニ之チ載スヘキナリ本條ノ第三號ニ關シテハ無能力者ハ每ニ目錄ノ利益チ持シテ受諾ストノ提示アリ是レ其當チ得ス無能力者ハ受諾スル事アラサルナリ

第千六百三十條

未タ本條ニ引用スル第八百六十一條以下ノ規定チ見サルチ以テ隨テ本條ニ批評チ試ムルチ得ス

第千九百九十四條及ヒ第千七百條

右同斷ナリ

第六節第一款　分派ノ訴權及ヒ其方式

民法ニ屬スヘキモノニ非ス

第千六百八十九條

是レ亦純然タル手續上ノ規定ナレハ此ニ屬スヘキモノニ非ス

第千六百九十九條

時效ノ規定ヲ見サルカ故ニ之ヲ論評スルヲ得ス

第千七百一條

何故ニ分派ノ際ニハ詐欺ヲ以テ完全ナル攻爭ノ原由トセスシテ之ニ若干ノ制限ヲ附スルヤ解ス可ラサルナリ然レトモ他ノ權利行爲ニ於ケル詐欺ノ規定如何ヲ見サルヲ以テ其規定ト此規定ト如何ニ相符合スルヤヲ論スルヲ得ス

第千七百三條乃至第千七百五條

此條モ亦其引用スル諸條ヲ見サルカ故ニ論評ヲナスヲ得ス

○

相續法ハ此條ヲ以テ終リヲ告クルヤ否ヤ明了ナラサレトモ贈遺等ノ如キスラ未タ之アラサルヲ以テ見レハ定メシ然ラサルヘシト思フナリ勿論草案ノ梅遺次第ニテ尙此處ニ屬スヘキ規定ニシテ先キニ既ニ其設ケアリシモノモ少ナカラサルヘク例ヘハ相續ノ訴ニ關スル規定ノ如シ是レ此處ニ相續分派ノ訴ヲ規定シタルヲ以テ之ヲ知ルヘキナリ其他ニ關シテハ續篇ノ寄送ヲ待ツヘキノミ然レトモ家督相續ノ一事ニ關シテハ以下ニ一二ノ卑見ヲ述フルモ又早キニ失セサルヘキ歟

猶者ノ先キニ第十二章ニ關シテ卑見ヲ述フルヤ未タ第三篇ヲ見サリシナリ故ニ其邊ニ付テハ先キニ述ヘタル卑見ヲ改メサルヲ得ス然レトモ家ト云フ一養ノ最早法律上一般ニハ其用ヲナスヲ得ス（就中住

所ノ一義ノタメニ其用ヲナスヲ得ス若シ其用ヲナサシムレハ父權ト相爲ルルニ至ルヘシ）トノ愚說ニ至テハ今尙之ヲ固持スルノ外アルヲ得サルナリ管ニ然ルノミナラス猶者ハ尙進テ今世ノ原則ニ從テ家族血族ヲ人事法相續法ノ根基トシテ給養ノ義務及ヒ相續ノ權利ヲ論スルニ徒シテ血族ノ殺等ニ因リ一家所屬ノ關係ニ因ラサル以上ハ此ノ彼ト相併立スルモ復タ其目的ヲ有セサル家及ヒ家督ト云フ者ハ相續法中ニ於テスラ復タ一般ニハ其用ヲ爲ス可ラスト斷言セサルヲ得ス愚フニ家督ノ制規タル尙能ク國民ノ經濟上道義上政治上等ノ發達ニ適フモノナレトモ其發達ノ中ニ於テ之ヲ保持スルノ必要ハ唯有限ノ區域ニ存スヘキノミ而シテ此必要ヲ察シテ法律上ノ制規ヲ置クハ實ニ肝要ノ一義ニシテ之ニ反スルトキハ則チ或ハ新制規ヲ作爲シ或ハ舊制規ヲ飾守スルカ如キ事之アラントス然ラハ則チ原則上血族ノ親ヲ以テ相續法ノ根基トナスノ傍ラ所謂家ナル者ヲ保持セシムルハ

其經濟上等ノ要尙今日ニ於テ果シテ如何ナルヤ草案者ハ唯舊習ニ因ラントノ外ニ理由ナキモノヽ如シ是レ斯ノ如キ法典ヲ新制スルノ際ニ當テハ以テ理由トスルニ足ラサルナリ然レトモ若シ草案者ニシテ之ヲ目シテ舊習トハ云ヘ既ニ日本國民現今ノ發達ニ的合セスト愚惟センカ是レ亦決シテ然ラサルナリ唯之ヲ諸般ノ情況諸種ノ身分職業ニ普通ノ制規トシテ維持ス可ラサルノミ之ヲ此ノ如キ保守的ノ元素ヨリ利澤ヲ享ケ得ヘキ情況ノタノニスル特別ノ制規トスルニ至テハ將來ニ於テモ亦其效用アラサル事ナカランヤ否國民經濟上大ニ其要アルヘキナリ卽チ華族ノタメニ之ヲ設クルカ如キ其一例ニシテ華族家督相續ノ事ハ明治ノ法律ニ至リテモ特ニ其規定アリ（明治六年第二十八號第二百六十三號同九年第七十五號）世襲財產ノ法律ト相應シテ實ニ華族カ其地ヲ固ムルノ根據トス其他農民ノ如キニ至テモ若干ノ程度內ニ於テハ家督相續ノ必要又華族ニ異ナラスシテ家督相續

ハ農民ノタノ其身分ヲ固タノ又今日ヨリモ一層大ナル規模ヲ以テ土地ヲ經紀スル事ヲ助成スルノ一要具タルヲ得シ相者ハ農業主義ノ如何ヲ論スルモノニ非ス又敢テ之ヲ論スヘキニ非サレトモ日本ノ農業ニハ浩大ナル將來ノ迫リ來ルアリ其來ルヤ陶器工ノ如キ現今ノ農業經濟ノ漸ヤク消ユルニ伴フヘキヲ思フテ然カ云ヒシノミ此論果シテ其當ヲ失ハストセハ家督相續法ハ之ヲ一定ノ大サヲ有スル農作地ニ限リ之ヲ許ス事トスヘク是レ農作地ノ規模ヲシテ大ナラシムルノ一手段タルヘキナリ之ニ反シテ無制限ニ家督相續ヲ許スハ農民ヲシテ永ク貧困ナラシムルノ弊源ナリ

商工業ニ於テモ亦「家」ヲ立テ家督相續ノ道ヲ守ラシムルハ其業ノ隆盛ヲ謀ル所以トス蓋シ一財產ヲ同權ノ數相續人ニ分派スルトキハ他ノ相續人ニ辨償シテ負擔ヲ引受クルカタノ時トシテハ其家族ニ於テ其業ヲ繼續スル事ヲ妨止セラレ若クハ難重ナラシノラレトモ之ニ家督相續ヲ許ストキハ商工ノ種族ヲ安固ナラシムル事猶ホ農民ニ於ケルカ如クナラトス但タ商工業ニ於テハ其許否ニ適當ノ限界ヲ畫スル事難キノミ

家ノ一義ヲ固守スヘキ程度右ノ如シトス此程度外ニ於テハ相續法中ト雖モ亦其義ヲ固持シテ家督相續權ヲ立ツル事實ニ必要ニ非サルノミナラス却テ有害ニシテ徒ニ混雜ヲ來タスヘシ

又右ノ如クシテ家督相續ヲ許ス事トスルモ遺產者ノ處分ノ自由ハ必然之ヲ擴張セスンハアル可ラス實ニ遺產者ノ如キハ之ヲ法律上ヨリ見ルモ又經濟上ヨリ見ルモ事ノ關係ヲ定ムルニ付キ最モ多ク其局ニ當ルヘキモノナレハ其自由ハ一層大ナルヲ要スルナリ而シテ法律ヲ以テ相續ノ事ヲ規定スル其規定ハ唯事宜ニ應スルノ補助タルニ止マルヘシ然ラスシテ家督相續權ヲ嚴峻ニスルトキハタノニ有害ノ結果アルヘキナリ

日本學術振興會

別紙委員會ノ意見ニ關スル英國ノ法規

別紙十一項ノ場合ニ關シ英吉利法律ノ規定ヲ陳述スルニ當リ同國實産相續法幷ニ人産分配法ノ要點ヲ略述スルコト必要ナリ英國ニ於テハ財産ヲ實産及ヒ人産ノ二種ニ分別ス是レ歴史上ノ理由ニヨリ生スルトコロノ區別ニシテ主トシテ財産ノ尊卑ニ基ツクモノナリ實産ハ不動産上ニ有スル世襲産、不動産上ニ有スル卑族世襲産、不動産上ニ有スル一代産及ヒ特種ノ動産（古來ノ慣習ニヨリ世襲スヘキ武器等ノ如キ是ナリ）ヲ含蓄ス而シテ實産中ニ含蓄セラレサル凡テノ財産ヲ總稱シテ人産トイフ普通ノ動産ハ凡テ其範圍内ニ入ルヘキモノナリコノ二種ノ財産ハ相續ノ法規ヲ異ニセリ實産ハ封建時代ノ餘習ニヨリ實産相續人ニ移轉ス是レ英吉利國民カ大ニ保守ノ精神ニ富ムノ致ストコロニシテ他ノ歐洲諸國ト異ナルノ點ナリ人産ハ凡テ死後財産管理者ニ移リ最近ノ親族間ニ分配ス實産相續法幷ニ人産分配法

日本學術振興會

ノ大要ヲ左ニ記載ス

實產相續法ノ大要

第一條　實產ハ先ツ最近ノ卑族親ヲシテ之ヲ相續セシム

同等ノ卑族親中ニアリテハ男ヲ先ニシ女ヲ後ニス

同等ノ卑族親中ニ二人以上ノ男アルトキハ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

女子ハ長幼ノ別ヲ立テス共同シテ相續ス

卑族ハ凡テ其尊族ヲ代表ス（例ヘハ死者ノ長男子既ニ死シタルトキハ其長男子祖父母ノ實產ヲ相續ス）

第二條　卑族親ナキトキハ最近ノ尊族親ヲシテ相續セシム

父及ヒ父方ノ尊族親ヲ先ニシ母及ヒ母方ノ尊族親ヲ後ニス

卑族ハ凡テ尊族ヲ代表ス（例ヘハ死者ノ父既ニ死シタルトキハ父ノ子卽チ死者ノ兄弟姉妹相續權ヲ有ス）

同等ノ親族中ニアリテハ同父母ノ血族親ヲ先ニシ異父母ノ血族親ヲ後ニス

同等ノ親族中ニアリテ男女長幼ノ別ヲ立ツルコト第一項ニ同シ但シ前項ノ規定ニ抵觸スルヲ得ス

人產分配法

第一條　夫ノ所得　夫ハ亡妻ノ遺產ノ全額ヲ受ク

第二條　寡婦ノ所得　夫妻ヲ遺シテ死シタルトキ寡婦ハ左ノ區別ニヨリ分配ヲ受ク

子及ヒ之ヲ代表スヘキ卑族親ナキトキハ遺產ノ半額

卑族親アルトキハ遺產ノ三分一

第三條　卑族親ノ所得　父死シタルトキ左ノ區別ニヨリ財產ヲ其子ニ平分ス

亡父ノ遺妻アルトキハ遺產ノ三分一

亡父ノ遺妻ナキトキハ遺產ノ全額

日本學術振興會

母死シタルトキ其夫ナキトキニ限リ遺産ノ全額ヲ其子ニ平分ス

以上數項ノ場合ニ於テ卑族親ハ凡テ其尊族ヲ代表ス

第四條　父ノ所得　父ハ死者ノ卑族親ナキトキニ限リ左ノ區別ニ從ヒ遺産ヲ受ク

死者ノ遺妻アルトキハ遺産ノ半額

死者ノ遺妻ナキトキハ遺産ノ全額

第五條　父死者ノ遺産ヲ受クヘキ場合ニ於テ父既ニ死シタルトキハ其受クヘキ額ヲ死者ノ母及兄弟姉妹ノ間ニ平分ス

兄弟姉妹ノ子ハ其父母ヲ代表ス子ニ非サル卑族ハ代表權ヲ有セス

第六條　前條ノ場合ニ於テ母及ヒ兄弟姉妹及ヒ之ヲ代表スヘキ者ナキトキハ遺産ヲ最近ノ血族親間ニ平分ス

右列記シタル規則ヲ適用シ別紙十一項ノ場合ニ於ケル英國ノ法例ヲ陳述スルコト左ノ如シ

日本學術振興會

（英國ニ於テハ家族制ヲ認ノス一個人ヲ以テ社會ノ元素トナスヲ以テ戸主非戸主ノ區別アル事ナシ）

第一項　實産ハ長男子（長男子既ニ死スルトキハ之ヲ代表スヘキ卑族親）ヲシテ相續セシム長男子既ニ死シ其代表者ナキトキハ長幼ノ順序ニ從ヒ他ノ男子（既ニ死シタルトキハ卑族親之ヲ代表ス）相續ス男子幷ニ其代表者ナキトキハ女子幷ニ其代表者共同シテ相續ス

人權ハ夫（卽チ戸主）ニ賜ス

第二項　實産ハ其父ヲシテ相續セシム父既ニ死シタルトキハ父ヲ代表スヘキ父ノ子（卽チ死者ノ兄弟姉妹同父母ノモノヲ先ニシ異父母ノモノヲ後ニス男ヲ先ニシ女ヲ後ニス）父ノ子幷ニ之ヲ代表スヘキ卑族親ナケレハ父方最近ノ尊族親若クハ其代表者父方尊族親幷ニ其代表者ナキトキハ母若クハ其代表者、母幷ニ其代表者ナケ

日本學術振興會

レハ母方最近ノ尊族親若クハ其代表者相續ス

人產ハ凡テ其夫ニ屬ス

第三項　實產ノ相續ハ前項ニ同シ

人產ハ其半額ヲ遺妻ニ與ヘ其半額ヲ父ニ與フ父既ニ死シタルトキハ父ノ受クヘキ額ヲ母幷ニ兄弟姉妹間ニ平分ス兄弟姉妹中死シタルモノアルトキハ其子之ヲ代表ス母幷ニ兄弟姉妹及其代表者ナケレハ最近血族親間ニ遺產ヲ平分ス

第四項　實產ノ相續ハ卑族親アルトキ第一項ニ同シ卑族親ナキトキハ第二項ニ同シ

人產ハ子アレハ子ニ平分シ子幷ニ之ヲ代表スヘキ卑族親ナケレハ父ニ與フ父既ニ死シタルトキハ第三項ノ例ニ從フ

第五項　實產ハ左ノ區別ニ從テ相續ス

其子長男子ナレハ其子相續ス

其子男子ニシテ長男子ナラサルトキハ既ニ死シタル兄ヲ代表スヘキモノ實產相續法第一條ノ順序ニヨリ（卽チ年長ノ兄ヲ代表スヘキモノヲ先ニス）相續ス兄ヲ代表スヘキモノナキトキニ限リ其子相續ス

其子女子ナルトキハ兄弟ノ代表者ナキトキニ限リ相續ス既ニ死シタル姉妹アルトキハ其代表者ト共同シテ相續ス

人產ハ死者男ナルトキハ三分一ヲ遺妻ニ與ヘ三分二ヲ其子ニ與フ既死ノ子アルトキハ生存ノ子ト既死ノ子ノ代表者トノ間ニ平分ス遺妻ナキトキハ全額ヲ子ニ與フ既死ノ子アルトキ前ニ同シ死者女ナルトキハ全額ヲ夫ニ與フ夫ナケレハ子ニ與フ既死ノ子アルトキ前ニ同シ

第六項　實產ノ相續ハ第一項ニ同シ

人產ハ死者男ナルトキハ三分一ヲ遺妻ニ與ヘ三分二ヲ子及其代表者ノ間ニ平分ス遺妻ナケレハ全額ヲ子及其代表者ノ間ニ平分ス死

者女ナルトキハ全額ヲ夫ニ與フ夫ナケレハ子及ヒ其代表者ノ間ニ平分ス

第七項　前婚ノ子ト後婚ノ子トノ間ニ區別ヲ立テス實產ノ相續ハ凡テ第一項ノ例ニ從フ」

人產ハ凡テ其夫ニ屬ス

第八項　實產ハ第一項ノ例ニ從ヒ相續ス

人產ノ分配ハ女死シテ夫ナキトキノ例ニ從フ

第九項　實產ノ相續ハ第一項ニ同シ

人產ノ分配ハ第八項ノ例ニ從フ

第十項　私生ノ子ハ凡テ相續權ヲ有セス又財產ノ分配ニ與カルコトヲ得ス

第十一項　前項ニ同シ

甲號　出生證書

第何號

本書氏名ハ何年何月何日願

濟何ト改名シタル旨管轄廳

ノ許可書ヲ具シテ届出タリ

依テ共ニ署名捺印ス

何年何月何日午後何時

届出人　氏名　印

身分取扱人　氏名　印

第何號

父何府何區何町何丁目何番地住士族商氏

名齢何年何月

母何縣何國何郡何村何番地住士族農氏名

女名齢何年何月

長男　氏名

右何年何月何日午前何時前記父ノ住家ニ

於テ出生シタル旨本日其父氏名證人何府

何區何町何丁目何番地住平民商氏名齢何

年何月ヲ同伴シテ届出タリ依テ共ニ署名

捺印ス

何年何月何日午前何時

日本學術振興會

右父

屆出人　氏　名印

證　人　氏　名印

身分取扱人　氏　名印

乙號　出生證書

本書中十字ヲ記入ス

屆出人　氏　名印

證　人　氏　名印

身分取扱人　氏　名印

第何號

本書氏名ハ其父氏名ノ起訴ニ因リ何年何月何日何地方裁判所ニ於テ正出子否認ノ言渡ヲ受ケ其裁判確定シタルニ付本日右裁判所書記ヨリ送致セル裁判所ノ謄本ニ依リ追記捺印ス

第何號

父何縣何國何郡何村何番地住平民農氏名

齢何年何月

母同縣同國同郡何町何番地寄住何縣何國何郡何町何番地住平民商氏名女名齢何年何月

次男　氏　名

右何年何月何日午後何時前記父ノ住家ニ於テ出生シタル旨其父氏名旅行不在ニ付本日家族氏名齢何年何月證人同縣同國同郡同村何番地住平民農氏名齢何年何月ヲ同伴シテ屆出タリ依テ共ニ署名捺印ス

日本學術振興會

何年何月何日午前何時

身分取扱人　氏　名印

何年何月何日午前何時

届出人　氏　名印

證　人　氏　名印

身分取扱人　氏　名印

日本學術振興會

丙號　私出子出生證書

第何號

第何號

何年何月何日午前何時何縣

何國何郡何町何番地住平民

商氏名齢何年何月ハ本書私

出ノ男子ヲ我子ト認知スル

旨届出タリ依テ共ニ署名捺

印ス

届出人　右父　氏　名印

身分取扱人　氏　名印

母何府何區何町何番地住平民商氏名女

名齢何年何月

私出男子　氏　名

右何年何月何日午後何時前記母ノ父ノ

住家ニ於テ出生シタル旨本日其分娩ノ

時臨席シタル同府同區何町何丁目何番

地住平民産婆氏名齢何年何月證人同府

同區何町何番地寄住何縣何國何郡何町

何番地住士族商氏名齢何年何月ノ證書

ヲ以テ届出タリ依テ共ニ署名捺印ス

何年何月何日午前何時

民意一八三〇四

日本學術振興會

丁號　棄兒證書

第何號

本書棄兒氏名ハ何縣何國何郡何村何番地住農氏名齢何年何月ノ次男ナル事發覺シ何年何月何日何地方裁判所ノ裁判確定シタル旨前記實父氏名ヨリ裁判書ノ謄本ヲ具シテ届出タリ依テ共ニ署名捺印ス

何年何月何日午後何時

届出人　實父　氏　名印

身分取扱人　氏　名印

第何號

棄兒男　氏　名

貌　閏年齢壹年六月位

右何年何月何日午前何時何府何區何町何丁目何番地地先キニ於テ發見シタル旨本日同府同區同町同丁目何番地住平民商氏名齢何年何月届出タルニ付キ其申述ヲ聽キ之ヲ調査スルニ棄兒着用衣服木綿茶格子縞綿入壹枚外金木綿肌着壹枚淺黄唐繻子細帶ヲ結ヒ雜色毛糸編物頭巾ヲ冠フリ茜紋羽足袋ヲ穿チ手ニ風車ヲ持タリ之ニ前記ノ氏名ヲ命シ即日同府何區何町何番

民意一ノ三〇五

届出人　氏　名印

證人　氏　名印

身分取扱人　氏　名印

日本學術振興會

地育兒院院長同府士族氏名齡何年何月エ
引渡シタリ依テ届出人ト共ニ署名捺印ス
何年何月何日午後何時
届出人　氏　名　印
身分取扱人　氏　名　印

○印ハ朱書

戊號　婚姻證書

第何號

本書氏名及ヒ氏名ハ何年何
月何日何地方裁判所ニ於テ
離婚ノ裁判ヲ受ケ其裁判確
定シタルニ付本日右裁判所
書記ヨリ送達セル裁判書ノ
謄本ニ依リ追記捺印ス
何年何月何日午後何時
身分取扱人　氏　名　印

○第何號

本書氏名及ヒ氏名ノ婚姻ハ

第何號

父何縣何國何郡何町何番地住士族商氏名
齡何年何月　戸主
母何縣何國何郡何町何番地住士族商氏女
名齡何年何月
長男　父同住商
夫　氏　名
齡何年何月
父何縣何國何郡何村何番地住平民農氏名
齡何年何月
母右妻何縣何國何郡何村何番地住平民農
氏名女齡何年何月

民意一ノ三〇六

日本學術振興會

検事ノ請求ニ因リ何年何月
何日何地方裁判所ニ於テ無
效ノ裁判ヲ受ケ其裁判確定
シタルニ付本日右裁判所書
記ヨリ送達セル裁判書ノ謄
本ニ依リ追記捺印ス
何年何月何日午後何時
身分取扱人　氏　名　印

次女
婦　氏　名
齢何年何月
一夫婦雙方ハ各其父母ノ許諾ヲ受ケタリ
一結婚ニ付何年何月何日管轄身分取扱人
ノ認可ヲ得タリ
一何年何月何日公證人氏名何役場ニ於テ
夫婦財產契約ヲ爲シタリ
證人何縣何國何郡何町何番地住平民商氏
名齢何年何月
證人何縣何國何郡何村何番地住士族農氏
名齢何年何月
右何年何月何日午後何時夫氏名ノ父ノ住

日本學術振興會

家ニ於テ證人立會雙方承諾ノ上婚姻ノ
儀式ヲ行ヒタル旨本日夫婦ハ戸主及ヒ
證人連署ノ書面ヲ具シテ夫氏名前記證
人ノ内氏名ヲ同伴シテ届出タリ依テ共
ニ署名捺印ス
何年何月何日午前何時
届出人　氏　名　印
證人　氏　名　印
身分取扱人　氏　名　印

日本學術振興會

巳號　　養子縁組證書

第何號　　第何號

本書養子縁組ハ何年何月何　實父何府何區何町何番地寄住何縣何國何
日何區裁判所ニ於テ認可ア　郡何町何番地住士族商氏名齢何年何
リタル旨養父氏名本日認可　月
書ヲ具シテ届出タリ依テ共　實母何縣何國何郡何町何番地住士族農氏
ニ署名捺印ス　名女名亡
何年何月何日午前何時　參男
届出人　氏名印　養子　氏名
身分取扱人　氏名印　齢何年何月
養父何府何區何町何番地住平民商氏名齢
何年何月
第何號
本書養子縁組ハ何年何月何　養母何縣何國何郡何町何番地住士族商氏

日本學術振興會

日何地方裁判所ニ於テ離縁
ノ裁判ヲ受ケ其裁判確定シ
タルニ付キ本日右裁判所書
記ヨリ送達セル裁判所ノ謄
本ニ依リ追記捺印ス

何年何月何日午後何時

身分取扱人　氏　名印

證人何府何町何番地寄住何縣何國何郡何
村何番地住士族商氏名齢何年何月
右本日養父母養子及ヒ養子ノ實父前記證
人ヲ同伴シテ出頭シ本職ノ前ニ於テ證人
立會雙方承諾ノ上養子縁組ノ契約ヲ爲シ

名女名何年何月
一養父母養子ヲ爲スニ付意思一致セリ
一養父母實子一人アリト雖モ事故アルニ
因リテ養子ヲ爲スノ特許ヲ得タリ
一養子氏名未成年ニ付キ氏名縁組ノ承諾
ヲ爲シタリ

タリ依テ共ニ署名捺印ス

何年何月何日午前何時

養父　氏　名印
養母（本人自署スル事能ハサルニ付キ本職代署ス）　氏　名印
養子　氏　名
實父　氏　名印
證人　氏　名印
證人　氏　名印
身分取扱人　氏　名印

日本學術振興會

庚號　死亡證書

第何號

何府何區何町何丁目何番地寄住何縣何國何郡何村何番地住平民商

戸主　氏　名

齡何年何月

妻何縣何國何郡何村何番地住平民農

氏名女何年何月

養父何縣何國何郡何村何番地住平民商

氏名亡

養母何府何區何町何丁目何番地住平民商

氏名女何年何月

實父何縣何國何郡何村何番地住平民農

民意一ノ三四〇

日本學術振興會

辛號　死亡證書

第何號

父何縣何國何郡何村何番地住平民農

氏名齡何年何月　戸主

母何縣何國何郡何村何番地平民農

氏名女何年何月

次男　父同住農

氏　名

齡何年何月

配偶者ナシ

右氏名何年何月午後何時前記父ノ住家ニ於テ死亡シタル旨本日戸主タル父氏名證人同縣同國同郡同村同番地住平民農氏名齡何年何月ニ同伴シテ届出タリ依テ共ニ

日本學術振興會

氏名齡何年何月

實母何縣何國何郡何町何番地住平民商

氏名女名齡何年何月

右氏名何年何月何日午前何時前記寄住ノ家ニ於テ死亡シタル旨本日親族何府何區何町何番地住平民商氏名齡何年何月證人同府同區同町同番地住平民商氏名齡何年何月テ同伴シテ届出タリ依テ署名捺印ス

何年何月何日午前何時

届出人　氏　名印

證　人　氏　名印

身分取扱人　氏　名印

日本學術振興會

壬號　戸主證書

第何號

何縣何國何郡何町何番地住士族官吏

戸主　氏　名

齢何年何月

前戸主父何縣何國何郡何町何番地住士族

無職業氏名齢何年何月

母何縣何國何郡何町何番地住士族商氏名

女名何年何月

右氏名何年何月何日父ノ譲産ニ因リ家督

相續シテ戸主ト爲リタル旨本日譲産者前

戸主父氏名及ヒ證人何縣何國何郡何町何

番地住平民商氏名齢何年何月ヲ同伴シテ

署名捺印ス

何年何月何日午前何時

届出人　氏　名　印

證　人（本人自署スル事能ハサルニ付本職代署ス）　氏　名　印

身分取扱人　氏　名　印

日本學術振興會

届出タリ依テ共ニ署名捺印ス

何年何月何日午前何時

届出人　戸主　氏　名印

届出人　前戸主　氏　名印

證　人　氏　名印

身分取扱人　氏　名印

日本學術振興會

死亡　家族離家證書

第何號

實家父何縣何國何郡何村何番地住平民

農氏名亡長女當戸主農氏名齢何年何月

妹　寡婦　氏　名　齢何年何月

一夫何縣何國何郡何村何番地住平民農氏

名亡

一前家戸主亡夫ノ父農氏名齢何年何月

右氏名夫死亡シタルニ因リテ雙方協議ノ

上何年何月何日實家ニ復歸シタル旨本日

實家戸主氏名届出タリ依テ共ニ署名捺印

日本學術振興會

ス

何年何月何日午前何時

届出人　氏　名　印

身分取扱人　氏　名　印

日本學術振興會

○婚姻ノ式ニ關スル新案

（一般ノ注意）　本章中婚姻ノ公式ヲ行フトアルハ總テ婚姻ヲ行フト改ム

第二節　婚姻ノ公告

第五十二條乃至第五十四條　（原案）

第五十五條　婚姻ノ認許ハ其公告ノ日限ヲ過キタル後ニ非サレハ之ヲ與フル事ヲ得ス但公告ヲ免除シタルトキハ格別ナリトス

第五十六條　公告ノ日限ノ後六个月ヲ過キタルトキハ更ニ公告ヲ爲スニ非サレハ婚姻ノ認許ヲ與フル事ヲ得ス

第五十七條乃至第五十九條　（削除）

第三節　婚姻ノ故障

第六十條乃至第六十五條　（原案）

第六十六條　行フヘキノ下ニ地ノ二字ヲ加フ

日本學術振興會

第六十七條　婚姻ノ公式ヲ停止ストアルヲ婚姻ノ認許ヲ與フルヲ得スト改ム

第六十八條　故障者自身婚姻ノ公式ニ出席シトアルヲ故障者之ヲ身分取扱人ニ申述シト改ム

第六十九條（原案）

第四節　婚姻ノ公式

第七十條　雙方ハ婚姻ノ公式ヲ行フノ前之ヲ行フ地ノ身分取扱人ノ認許ヲ受クルヲ要ス

此認許ハ雙方其父其後見人又ハ此等ノ者ノ特別代理人ヨリ之ヲ求ムル事ヲ得

第七十一條　雙方ハ身分取扱人ノ認許ヲ請求スル時左ノ書類ヲ差出ス可シ

原案第五十七條ノ一ヨリ五マテ記入

第七十二條（原案第五十八條）

第七十三條（原案第五十九條）

第七十四條　身分取扱人ハ雙方其財產契約ヲ爲シタルヤ否ヤヲ質問シ若シ之ヲ爲シタルニ於テハ其契約ノ日附及ヒ之ヲ作リタル公證人ノ氏名及ヒ役所ヲ申述セシム可シ此申述ニ付テハ卽時ニ證書ヲ作ル可シ

第七十五條　舊第七十六條記入但シ其公式ヲ行フ事ヲ拒ムトアルヲ認許ヲ與フルヲ得ストハ爲スヘシ

第七十六條　婚姻ノ公式ハ雙方ノ中一方ノ住所又ハ居所ノ地ニ於テ證人二名ノ前ニテ慣習ノ儀式ニ從ヒ之ヲ行フ可シ

雙方ノ承諾ハ明示ナルヲ要セス

第七十七條　婚姻ノ公式ハ其認許ノ日ヨリ幾日內ニ之ヲ行フ事ヲ要ス

日本學術振興會

第七十八條　婚姻ノ公式ヲ行ヒタル後幾日内ニ雙方其婚姻ヲ行ヒタル屆ヲ爲ス事ヲ要ス

此屆出ニハ雙方及ヒ證人ノ署名捺印アル事ヲ要ス

身分取扱人ハ此屆書及ヒ雙方差出シタル書類ニ依リ婚姻證書ヲ作ル可シ

第五節　日本人外國ニ於テ并ニ外國人帝國ニ於テ爲ス婚姻

第七十九條　公式ヲ行フトアルヲ婚姻ノ認許ヲ與フル事ヲ得ト改ム

婚姻ヲ行ヒタル後ハ第　條ノ規定ニ從ヒ之ヲ屆出ツ可シ

第八十條　公式ヲ行フトアルヲ認許ヲ與フルト改ム

第六節　婚姻成立ノ證據

第八十一條乃至第八十四條（原案）

第七節　婚姻ノ不成立及ヒ無效ノ請求

第八十五條　雙方ノ承諾全ク欠缺シタル婚姻ハ不成立トス

又身分取扱人ノ認許ナクシテ爲シタル婚姻ハ不成立トス

第八十六條乃至第八十八條（原案）

第八十九條　管轄ニ非サル身分取扱人ノ認許ニ依リ行ヒタル婚姻及ヒ認許ノ期間ヲ過キテ行ヒタル婚姻ハ無效トス

第九十條乃至第九十八條（原案）

第八節　婚姻ノ效果

第九十八條第二　婚姻ハ夫婦ノ間ニ於ケルト第三者ニ對スルトヲ問ハス其公式ノ日ヨリ其效果ヲ生ス

第九十九條乃至第百十二條（原案）

第九節　婚姻ノ解離

第百十三條（原案）

第十節　罰則

民意 ～～～

日本學術振興會

第百十四條　婚姻ノ公告ヲ爲サスシテ認許ヲ與ヘタル身分取扱人ハ云々

第百十五條　公式ヲ行ヒトアルヲ認許ヲ與ヘタルト改ム

第　條　證人ナク婚姻ヲ爲シ又ハ婚姻ノ後屆出ヲ爲サヽルトキハ前條同一ノ罰金ニ處ス

日本學術振興會

非戸主相續ニ關スル委員會ノ意見

第一　戸主ノ妻、子ヲ遺シテ死シタル場合ハ其財産ハ子ニ屬ス

第二　戸主ノ妻、子ナクシテ死シタルトキハ其財産ハ夫ニ屬ス

第三　非戸主ノ夫婦間ニ共同子ナクシテ夫ノ死シタル場合ニ於テハ其財産ハ戸主ニ屬ス

第四　夫死シテ後未亡人一個ニテ作リタル財産モ亦戸主ニ屬ス

第五　非戸主子ヲ遺シテ死シタルトキハ其財産ハ子ニ屬ス

第六　非戸主多數ノ子ヲ遺シテ死シタルトキハ其財産ハ長子ニ屬ス

第七　非戸主ノ妻前婚ノ子ト後婚ノ子トヲ有シテ死シタルトキハ其財産ハ後婚ノ子ニ屬ス

第八　婦、子ヲ遺シテ實家ニ復歸シタルトキハ其財産ハ實家ノ戸主ニ屬ス

第九　婦、子ヲ遺シテ實家ニ歸ラス別ニ一家ヲ爲シタルトキハ無子

日本學術振興會

戸主ノ死亡ト同シク親屬會ノ議定ニ任カス

第十　私生ノ子アル女他ニ嫁シタル場合ハ前婚ノ子ニ同シ

第十一　私生ノ子アル女他ニ嫁シテ子ヲ設ケタル後離緣又ハ夫死シテ歸家シタルトキハ私生子ハ母ニ對シ相續權アリ

日本學術振興會

出生證書

何號

本日下名ノ身上證書官吏ノ前ニ身元、、、、、分明ナル（何國何町何番地ニ）住スル（何）宗ノ（産婆何誰）出頭シ（何國何町何番地ニ）住スル（何國何町何番地ニ）住官吏ノ前ニ身元分明ナスル（何職何）宗（ノ何某ノ婦何某生家何何宗ル何國何町何番地ニ住其夫ノ住居ニ於テ）千八百（何）年（何）月（職何某出頭シ何年何月何）日（何）時（何）分（男）兒ヲ分娩シ且名何日某婦ノ分娩セシ小ハ（未タ）付ケ（サルコトヲ）屆出リ兒ニ名ヲ何ト付ケシコ（産婆何某右婦分娩ノ際在席ナリシコトヲ陳述トヲ屆出リセリ）

右朗讀、認諾、署名ス　右朗讀、認諾、署名ス

何某　（何某）

（）印
（朱書）

日本學術振興會

何國何年何月何日　（何國）千八百（何）年（何）月（何）日

身上證書官吏何氏）　身上證書官吏（何氏）

（一）印ハ朱書

私生子證書

（何號）

本日下名ノ身上證書官吏ノ前ニ身元（當廳門番何某ニ依リ）分明ナル（何國何町何番地ニ）住スル（何）宗（何懸何某）出頭シ（何國何町何番地ニ）住スル（未婚ノ女工何宗何某住居ニ於テ）千八百（何）年（何）月（何）日（何）時（何）分（女）兒ヲ分娩シ且名ヲ（何ト）付ケ（シコトヲ）屆出リ

（何）何某右何某分娩ノ際在席シ且前記ノ小兒ヲ我兒ト認ムル旨陳述セリ

右登記ノ爲メ（何）年（何）月（何）日（監督廳ノ認許ヲ得タリ）

日本學術振興會

右朗讀、認諾且署名ス

（何　某）

（何國）千八百（何年何月何日）

身上證書官吏（何氏）

（印）
（朱書）

死亡證書

（何號）

本日下名ノ身上證書官吏ノ前ニ身元、、、、、、
分明ナル（何國何町何番地ニ）住スル（何）宗ノ
（何職何某）出願シ（何國何町何番地ニ住シ何）
宗ニシテ（獨身ナル學生何某同人ハ右申告者及其
婚何生家何ノ息子ニシテ何國ニ生レ何）才ナリ千
八百（何）年（何）月（何）日（何）時（何）分
死去セシコトヲ屆出タリ
右朗讀、認諾且署名ス

（何　某）

（何國）千八百（何）年（何）月（何）日

身上證書官吏（何氏）

日本學術振興會

結婚證書

（何號）

本日下名ノ身上證書官吏ノ前ニ結婚ノ爲メ出頭スル者左ノ如シ

（何某及何某生家何トノ婚姻ハ何年何月何日何地方裁判所ノ判決ニ依リ離解セリ

第一身元（何某ニ依リ）分明ナル（何職何某同人何國何年何月何日

身上證書官吏何某）

家何ノ間ノ息子ナリ

第二身元（書記何某ニ依リ）分明ナル（何某同人（何）宗ニシテ（何）年（何）月（何）日（何國ニ生レ當時何國何町何番地ニ）住ス（死去シタル何職何某及ヒ何某及ヒ何國ニ住スル

日本學術振興會

其婿何某生家何ノ間ノ娘ナリ）

證人トシテ立會且出頭セシ者左ノ如シ

第三身元、、、、、分明ナル（何國何町何番地ニ）住スル（何職何某何）才

第四身元（何某ニ依リ）分明ナル（何國何町何番地ニ）住スル（何職何某何）才

身上證書官吏ハ證人ノ面前ニ於テ結婚豫約者ニ對シ結婚セント欲スルヤ否ヤ質問セリ

結婚豫約者ハ右質問ニ付キ然リト答ヘタル後

身上證書官吏ハ右ノ者ヲ自今法律ニ因リ正當夫婦タル旨ヲ陳述セリ

右朗讀、認諾、署名ス

（何　某）

（何　某

何　某

何　某）

（何國）千八百（何）年（何）月（何）日

身上證書官吏（何　某）

日本學術振興會

獨國身分及結婚ノ認證ニ關スル法律

第一

日本學術振興會

日本學術振興會

身分及ヒ結婚ノ認證ニ關スル法律

第一章　總則

第一條　出產結婚及ヒ死亡ノ認證ハ專ラ政府ノ任命シタル身分登記官特定シタル帳簿上登記シテ之ヲ爲スモノトス

第二條　身分登記所管轄區ハ高等行政廳ノ定ムルモノトス

一ツノ身分登記所ハ一个或ハ數個ノ町村ヲ管轄スル事ヲ得町村ヲ大ナルモノハ數個ノ身分登記所ヲ有スルコトアリ

第三條　各身分登記所ハ一人ノ身分登記官又ハ少クトモ一人ノ代理者ヲ置クヘキモノトス身分登記官及ヒ其代理者一時ノ差閊又ハ欠亡ノ場合ニハ身分登記所ニ最近ノ監督廳ハ隣區ノ身分登記官或ハ其代理者ニ臨時ノ認證ヲ委任スルノ權ヲ有ス

任命ハ第四條ニ於テ特別ナル規定ナキ以上ハ高等行政廳ノ司ドルモノトス

日本學術振興會

僧侶及ヒ其他宗教上ノ職ニ從事スル者ハ身分登記官又ハ其代理トナル事ヲ得ス

第四條　一町村區域ヲ超ヘサル身分登記所管轄區ニアリテハ高等行政廳特ニ其官吏ヲ任命セサル以上ハ町村長（市長、村長、郷長）身分登記ノ事務ヲ取扱フモノトス然レトモ町村長ハ高等行政廳ノ認可ヲ經テ該事務ヲ他ノ町村官吏ニ委任スルコトヲ得但シ其委任ハ何時ニテモ之ヲ解ク事ヲ得

町村廳ハ特別ナル身分登記官ヲ置クヲ得此場合ニ於テ其任命ハ町村ノ議決ニ依リ高等行政廳ノ認可ヲ經テ之ヲ爲スモノトス

代理者ノ任命モ亦同シ

町村ノ議決ニヨリ任命セラレタル特別ナル身分登記官及ヒ其代理者ハ町村官吏トナルモノトス

第五條　高等行政廳ノ爲ス任命及ヒ任命ノ認可ハ何時ニテモ之ヲ取消ス事ヲ得

第六條　數多ノ町村區ヲ管轄スル身分登記所ノ身分登記官及ヒ其代理者ハ必ス高等廳ヨリ任命セラルトモノトス

其町村區中ノ各町村長及ヒ其他ノ職員ハ身分登記官及ヒ其代理者ノ職務ニ從事スルノ義務ヲ負フモノトス

數多ノ町村聯合ノ長ニシテ同一ナル義務ヲ負フヘキ聯邦ノ成規ハ此法律ニヨリ消滅セサルモノトス

第七條　第四條ニ從ヒ町村ニヨリテ任命セラレタル身分登記官ニ必用ナル報酬ハ町村ノ負擔スルモノトス

第六條第二項及ヒ第三項ニ記載セル職員ハ身分登記官ノ事務ヲ取扱フ爲ノ主務ノ區ニ屬セサル町村ヨリ總テノ場合ニ於テ概算シテ確定スヘキ報酬ヲ請求スルノ權ヲ有ス

其確定ハ下等行政廳之ヲ爲ス可シ其抗告ニ付テハ高等行政廳確定

日本學術振興會

日本學術振興會

裁判ヲ爲ス

高等行政廳町村廳ノ職員ニアラサルモノヲ身分登記官或ハ其代理者ニ任用スルトキハ之ニ給與スヘキ報酬ハ國庫ノ負擔ス可キモノトス

第八條　諸雜費ハ常ニ町村之ヲ負擔ス然ルモ帳簿及ヒ其拔書ノ書式ハ聯邦中央廳ヨリ無代價ニテ各町村ニ給與スルモノトス

第九條　數多ノ町村ヲ管轄スル身分登記所ニ於テハ身分登記官及ヒ其代理者ニ給與ス可キ報酬及ヒ諸雜費ハ人口ノ割合ニ應シ各町村廳ニテ之ヲ分擔セシム

第十條　町村外ニ獨立セル私領地ハ此法文中ニ名ツクル町村ト同一ノ資格ヲ有シ且ツ之ニ長タル者モ町村長ト同一ニ看做スモノトス

第十一條　聯邦ノ成規ニ於テ別ニ監督廳ヲ設置セサルトキハ身分登記官執務ノ監督ハ下等行政廳之ヲ司トリ高等監督ハ高等行政廳之ヲ司トル

監督廳ハ身分登記官ニ對シ說諭讀責ヲ加ヘ及ヒ罰金ヲ科スル事ヲ得罰金ハ如何ナル場合ト雖モ百「マルク」ヲ超エル事ヲ得ス

身分登記官執務ヲ拒絕スルトキハ其關係人ノ申出ニ依リ身分登記職務上ノ住所々在地ノ裁判所ハ身分登記官ニ執務ヲ命スルコトヲ得

裁判手續及ヒ抗告手續ハ聯邦ノ成規ニ於テ特別ノ規定アルニアラサレハ無訟事件ノ成規ニ適用ス

第十二條　各身分登記官ハ出產帳簿結婚帳簿死亡帳簿ノ三帳簿ヲ管理ス可キモノトス

第十三條　身分登記ハ番號ノ順序ニ從ヒ且ツ省略スルコトナクシテ之ヲ爲スモノトス其餘白ニ屬スル部分ハ橫線ヲ畫シ且ツ其緊要ナル數字ハ必ス文字ヲ以テ記入ス可キモノトス

日本學術振興會

口述ヲ以テ爲ス願出ニヨル登記ハ左ニ掲グル事項ヲ具備スヘシ

第一　登記ノ場所及ヒ年月日

第二　出頭者ノ表示

第三　出頭者ノ身分ヲ如何ナル方法ニヨリ身分登記官ノ了知シタル事

第四　出頭者ノ面前ニテ登記ノ事項ヲ朗讀シ之レカ認諾ヲ經タル事

第五　出頭者ノ署名若シ無筆又ハ不得止事故アリテ自署シ能ハサルトキハ其理由ヲ記入スヘシ

第六　身分登記官ノ署名

書面ヲ以テ登記ヲ願出テタルトキハ登記ノ場所及ヒ年月日ヲ記入シ且ツ身分登記官ノ署名ヲ以テ完成スル者トス

追加、刪除又ハ變更ハ欄外ニ記入シ且ツ登記ノ方法ニ從ヒ特ニ署名スヘシ

第十四條　身分登記官ハ帳簿ニ登記スル毎ニ同日其認證セル謄本ヲ副帳簿ニ記入スヘシ

一層年經過ノ後身分登記官ハ各本帳簿及ヒ各副帳簿ニ其簿中ノ登記ノ數ヲ付記シテ之ヲ完結シ其副帳簿ヲ監督廳ニ送付スヘシ監督廳ハ副帳簿ノ檢閲ノ後第一審裁判所ニ之ヲ保管ノ爲メ送達スヘシ

副帳簿ノ送付セシ後本帳簿中ニ登記セシ分ハ直チニ認證セル謄本ヲ以テ監督廳ニ通知スヘシ監督廳ハ其登記ヲ副帳簿ニ登記ヲ爲サシムヘシ

第十五條　正當ノ手續ヲ經タル身分帳簿（從第十二條至第十四條）ハ其僞造及ヒ不正ノ登記又ハ登記願及ヒ其確定ノ不正ノ證ヲ提出スル迄ハ認證スヘキ事實ニシテ其中ニ登記セラレタルモノヲ充分ノ證據力ヲ有スルモノトス

日本學術振興會

本帳簿又ハ副帳簿ト同一ナリト認メラレタル謄本ニシテ身分登記官又ハ管轄裁判官ノ署名及ヒ官印アル者ハ亦前同様ノ證據力ヲ有スルモノトス

登記ノ種類及ヒ方式ニ付キ此法律ノ規定ニ抵觸スルニ因リ其證據力ヲ失ヒ又ハ之ヲ減少スルヤ否ハ裁判官ノ自由ノ心證ニヨリ判斷ス可シ

第十六條　身分帳簿ニ登記シ及ヒ之ニ關スル手續ハ手數料及ヒ證印ヲ要セス

何人ニテモ附錄ニ定ムル定額表ニ從ヒ相當ノ手數料ヲ拂フモノニハ身分帳簿ヲ閲覧セシメ及ヒ認證セル謄本（第十五條）ヲ付與ス可シ官用若クハ關係人ノ無資力ナル時ハ手數料ヲ要セスシテ身分帳簿ノ一覧ヲ許シ及ヒ謄本ヲ付與ス

各登記謄本ニハ亦帳簿ニ登記セル補充及ヒ修正ヲ記入シ慎カサル可カラス

第二章　出產認證

第十七條　出產ハ一週間内ニ分娩地所轄ノ身分登記官ニ届出ツ可シ

第十八條　左ニ掲クル者ハ出產届出ノ義務ヲ有スルモノトス

第一　正父 チチオヤ der Vater

第二　分娩ノ時現在セシ產婆 Hebamme

第三　分娩ノ時現在セシ醫師

第四　其他分娩ノ時現在セシ者

第五　母ノ已ニ届出ヲナシ得ルニ至リシ者但シ届出ノ義務ヲ行フヘ上記ノ順序ニ從ヒ前者不在若シクハ事故ノ爲メ届出ヲナス能ハサルトキニノミ後者届出ヲナスヘキ者トス

第十九條　届出ハ義務者自身又ハ其他分娩ノ事ヲ自己ノ實驗ニ依リ知ル者ヨリ口頭ヲ以テ之ヲ爲ス可キ者トス

東京學術振興會

第二十條　公立産科病院産婦院病院囚獄及ヒ其他類似ノ場所或ハ兵營ニ於テ出産アル時ハ其舉ノ長或ハ其管轄廳ノ特任ヲ受ク　タル官吏ノミ出産届出ノ職務ヲ有ス此場合ニ於テハ職務上ノ方式ニ依ル書面ノ届出ヲ以テ足レリトス

第二十一條　若シ届出ノ正否ニ關シ疑ハシキ廉アルトキハ身分登記官ハ相當ノ方法（從第十七條至第二十條）ニヨリテ心證ヲ得ルヘシ

第二十二條　出産ノ登記ハ左ノ諸件ヲ具備スヘシ

第一　届出者ノ姓名身分又ハ職業及ヒ住所

第二　出産ノ場所日及ヒ時

第三　生子ノ男又ハ女ナル事

第四　生子ノ名

第五　兩親ノ姓名宗旨身分又ハ職業及ヒ住所

日本學術振興會

雙生以上ノ出産ノ登記ハ各生子ニ付キ各別ニ之ヲ爲シ且ツ分娩時ノ前後ヲ詳細ニ記載ス可シ

届出ノ際生子ノ名未タ確定セサルトキハ遲クトモ分娩后二個月間内ニ之ヲ届出ツ可キモノトス而シテ其登記ハ最初ノ登記ノ欄外ニ記入スヘキモノトス

第二十三條　死体ノ子ヲ分娩シ又ハ生子分娩ノ際死去シタル時ハ遲クトモ其翌日之ヲ届出ツ可シ此場合ニ於テハ第二十二條第一乃至第三及ヒ第五ニ記載セル條件ヲ唯死亡欄簿ニ登記スルヲ以テ足レリトス

第二十四條　嬰兒ヲ發見セシ者ハ遲クトモ其翌日之ヲ地方警察廳ニ届出ツヘシ地方警察廳ハ緊要ナル捜索ヲ遂ケ而シテ其區ノ身分登記官ニ出産帳簿ニ登記ノ爲メ其捜索ノ結果ヲ届出ツヘキモノトス其登記ハ時、場所、發見ノ狀況小兒ノ着用セル衣服ノ品質并ニ目

日本學術振興會

標及ヒ其他ノ所持品小兒体格ノ徴標、推測ノ年齢、男又ハ女タル及ヒ小兒ヲ引取リタル廚場所、或ハ人及ヒ附シタル名ヲ具備スヘキモノトス

第二十五條　私生子ヲ認諾セシ事ハ身分登記官ノ面前ニ於テ之ヲ陳述シ又ハ裁判所或ハ公證人ノ作リタル證書中ニ記載アル時ニ限リ之ヲ出產帳簿ニ登記スル事ヲ得

第二十六條　出產登記ノ后ニ小兒ノ身分確定シ又ハ私生兒ヲ實子トシ若クハ小兒ヲ養子トシ若クハ其他ノ方法ニヨリ身上權ノ變更スルトキハ其事項ヲ公正證書ニヨリ證明スルトキニ限リ關係人ノ申出ニ因リ其出產ヲ登記シタル紙ノ欄外ニ記入スヘシ

第二十七條　三ケ月以上出產屆出ヲ延滯シタル時ハ事實ヲ搜査シタル后監督廳ノ認許ヲ經テ始メテ登記スル事ヲ得ルモノトス

此搜査ニ關スル費用ハ屆出延滯者ヨリ徵收スヘキモノトス

第三章　結婚ノ要件

第二十八條　結婚ヲ爲スニハ結婚者双方ノ承諾及ヒ結婚丁年ヲ必要トス

結婚丁年ハ男子ハ滿二十歲女子ハ滿十六歲トス然レトモ例外ヲ許スコトアリ

第二十九條　嫡出兒結婚ヲ爲スニハ男子ハ二十五歲女子ハ二十四歲ニ滿タサル間ハ其父ノ許諾ヲ要ス父ノ既ニ死去セルトキハ丁年者ハ其母ノ許諾ノミヲ以テ足レリトスト雖トモ未丁年者ハ尙後見人ノ許諾オモ要ス

兩親ノ既ニ死去セルトキハ未丁年者ハ後見人ノ承諾ヲ要ス

父又ハ母久シク陳述ヲ爲ス能ハサルトキ或ハ久シク其在留地ノ不明ナルトキハ父又ハ母ノ死亡ノ場合ニ於テモ同シ

聯邦ノ法律ニ從ヒ未丁年者ニシテ後見ニ服セサルモノハ後見人ノ

日本學術振興會

承諾ヲ要セス

何レノ場合ニ於テ後見廳又ハ親屬會議ノ許可ヲ要スルヤハ聯邦法律ノ定ムル所ロニ依ル

第三十條　私生兒ニハ父ヲ失ヒシ繼嫡出兒ニ付キ定ムル前條ノ規定ヲ適用ス可キモノトス

第三十一條　養子ノ結婚ヲ爲ス場合ニ於テハ養子ヲ爲セシ者父（第二十九條）ニ代リテ許諾ヲ與フルモノトス然レトモ此規定ハ養子ヲ爲スト雖トモ父ノ權ヲ生セサル法律ノアル聯邦ノ部分ニハ之ヲ適用セス

第三十二條　結婚ノ許諾ヲ拒絶セシ場合ニ於テハ丁年兒ハ裁判官ニ依リ許諾ノ補充ヲ得ル爲ノ訴ヲ起ス權ヲ有ス

第三十三條　左ニ記載スル者ノ間ニハ結婚ヲ禁スルモノトス

第一　傍屬親及ヒ卑屬親トノ間

第二　實兄弟姉妹及ヒ兄弟姉妹ニシテ其父又ハ母ノ異ナル者トノ間

第三　總テ繼父母及ヒ繼子ノ間并ニ配偶者ノ父母及ヒ父ノ配偶者トノ間

此場合ニ於テハ親屬又ハ姻屬ノ關係嫡出ト私生ニ基クトニ拘ハラス繼父母繼子ノ關係又ハ姻屬ノ關係ヲ生セシ婚姻ノ尙存在スルト否ヤヲ問ハサルモノトス

第四　養子ト養子ヲ爲セシ者トノ間但シ其權利關係存スル間ニ限ル

第五　姦通ニ因リ離婚セラレシ者ト其姦通者トノ間

第五ノ場合ニ於テハ例外ヲ許スコトアリ

第三十四條　何人ト雖トモ新婚姻ハ從來ノ婚姻ヲ解カサル前又ハ其婚姻ノ無效又ハ不成立ノ言渡シアル前之ヲ爲スコトヲ得ス

日本學術振興會

第三十五條　女子ハ離婚後十ケ月ヲ經テ始メテ再ヒ結婚スルコトヲ得

例外ハ之ヲ許スコトアリ

第三十六條　第二十八條ヨリ第三十五條マテノ規定ニ反シテ爲シタル結婚ヨリ生スル法律上ノ效果ニ付キテハ聯邦成規ノ定ムル所ニ依ル

強暴、錯誤及ヒ詐欺カ婚姻ノ效果ニ及ホス影響ニ付キテモ亦同シ

第三十七條　被後見者ト其後見人又ハ後見人ノ子トハ後見ノ存スル間ハ結約スルコトヲ許サス然レトモ兩者既ニ婚姻ヲ爲シタルトキハ其婚姻ハ無效トシテ訴ヲ起スコトヲ得ス

第三十八條　軍人自國官吏及ヒ外國人ノ結婚ニ付キ認可ヲ要スルノ成規ハ此法律ニ依リテ消滅セサルモノトス然レトモ其認可ヲ經スシテ結婚ヲ爲スト雖モ結婚ノ法律上ノ效力ハ存スルモノトス

結婚前財產ノ證明分離又ハ保全ヲ要スルノ成規ニ付キテモ亦同シ

第三十九條　此法律ノ規定外ニ於テ尙結婚權ヲ制限スルノ成規ハ凡テ之ヲ廢ス

第四十條　例外ヲ許スノ權ハ只政府ニノミ屬シ其權ノ實行ハ聯邦ノ政府之ヲ定ム

第四章　結婚ノ方式及ヒ證證

第四十一條　獨逸帝國內ニ於テハ法律上有效ナル結婚ハ必ス身分登記官ノ面前ニ於テ之ヲ行ハサル可カラス

第四十二條　管轄身分登記官ハ結婚豫約者ノ一方住所ヲ有シ若クハ平常在留スル區ノ身分登記官トス而シテ數多ノ身分登記官ノアル場合ニハ其中ニ就テ結婚豫約者其一ヲ撰フ可キモノトス

此法律ノ規定ニ從ヒ爲シタル結婚ハ身分登記官ノ管轄身分登記官ナラサリシ故ヲ以テ其婚姻ヲ取消スコトヲ得ス

日本學術振興會

第四十三條　管轄身分登記官ノ書面委任アルトキハ他所ノ身分登記官ノ面前ニ於テ結婚ヲ爲スコトヲ得

第四十四條　結婚ヲ爲スノ前ニハ婚姻ノ廣告ヲ要ス

其廣告ハ第四十二條第一項ニ從ヒ結婚ノ式ヲ行フ各身分登記官ノ管轄スルモノトス

第四十五條　婚姻ノ廣告ヲ爲スノ前結婚豫約者ハ身分登記官ニ對シ法律上結婚ニ必要ナル條件ノ具備セル旨ヲ證明ス可シ

特ニ結婚豫約者ハ左ノ書類ヲ差出ス可シ

第一　出產證書

第二　法律ニ從ヒ承諾ヲ要スル人々ノ同意ノ陳述書

但シ前記ノ書類ハ認證ヲ經サル可カラス

身分登記官ハ此證書ニ依リ確定セラル可キ事實ヲ自カラ了知スルカ又ハ其他信ス可ク證明セラルトキハ該證書ヲ提出セサルコトヲ許ス事ヲ得又證書中些少ノ相違等ハ性名ノ書方異ナルコトアルモ他ノ方法ニ依リテ關係人ノ其者タルコトヲ確定シ得ルトキハ官吏ハ之ヲ不問ニ措クヲ得

結婚豫約者ノ差出セシ證書又ハ其他提出セシ證據物ニ依リテ事實ヲ確定スルニ不充分ナリト認ムルトキハ官吏ハ結婚豫約ヲシテ其事實ノ正實ナルコトニ付キ略式宣誓ヲ爲サシムルノ權ヲ有ス

第四十六條　婚姻ノ廣告ハ左記ノ場所ニ於テ公示ス可キモノトス

第一　結婚豫約者双方ノ住所々在ノ町村

第二　結婚豫約者ノ一人其住所外尙ホ平常在留スル地アルトキハ其當時ノ在留地

第三　結婚豫約者ノ一人最近ノ六ケ月間ニ其住所ヲ轉シタルトキハ又其舊住所々在ノ町村

公示ハ結婚豫約者及ヒ其兩親ノ姓名身分又ハ職務及ヒ住所ヲ具備

日本學術振興會

ス可キモノトス

公示ハ二週間町村役場内又ハ其他町村廳ノ特ニ定メタル掲示場ニ掲示ス可キモノトス

第四十七條　第四十六條ニ從ヒ婚姻ノ廣告ヲ掲示ス可キ地外國ナルトキハ請願者ノ費用ヲ以テ其外國ニ於テ發刊又ハ流行スル新聞紙ニ一回廣告シ以テ右ノ掲示ニ代フルモノトス結婚ハ廣告ヲ記載セル新聞紙發兌ノ日ヨリ二週間ヲ過クルニアラサレハ之ヲ許サス

該當ナル外國地方廳ノ證明ニ因リ全ク禁婚條件存セサル事ヲ證明スルトキハ新聞紙上ニ廣告スルヲ要セス

第四十八條　身分登記官ハ禁婚條件ノ存在スルコトヲ知リタルトキハ其結婚ヲ拒絶ス可キモノトス

第四十九條　婚姻ノ廣告ヲ爲セシ身分登記官ニ非サル他ノ身分登記官ノ面前ニ於テ結婚ヲ行フトキハ其廣告ヲ爲シタル身分登記官ハ其成規ニ從ヒ廣告ヲ爲シタルコト及ヒ之ヲ爲シタル時並ニ禁婚條件ノ存在ヲ認メサリシ事ノ證書ヲ作ル可シ

第五十條　婚姻ノ廣告ヲ爲サヽル事ヲ許スノ權ハ只政府ニノミ屬シ其實行ハ各聯邦廳ノ定ムル所ニ依ル

醫師ノ證明ニ因リ病症危篤ナルカ爲メノ結婚ヲ延引シ得ヘカラサル場合ニ於テハ身分登記官ハ（第四十二條第一項）婚姻ノ廣告ナクシテ結婚式ヲ執行スル事ヲ得

第五十一條　婚姻廣告ヲ爲シタル後六ケ月ヲ經過シテ尚結婚ヲ行ハサントキハ其廣告ハ其效力ヲ失フモノトス

第五十二條　結婚ハ二人ノ證人ノ面前ニ於テ先ツ身分登記官ハ各結婚豫約者ニ對シ双方相互ニ結婚セント欲スルヤヲ問ヒ而シテ双方ハ之ニ應答ヲ爲シ後チニ身分登記官ハ結婚豫約者双方爾來法律ニ依リ正シキ夫婦タル旨ヲ宣告シテ之ヲ爲スモノトス

日本學術振興會

第五十三條　證人ハ丁年者ナラサル可カラス而シテ關係者ト證人又ハ證人相互カ親屬及ヒ姻屬ノ關係アルモ妨ケナキモノトス

第五十四條　結婚帳簿ノ登記ハ左ノ事項ヲ具備スヘシ

第一　結婚者ノ姓名、宗旨、年齢、身分又ハ職業生地及ヒ住所

第二　結婚者ノ兩親ノ姓名、身分又ハ職業及ヒ住所

第三　立會セシ證人ノ姓名、年齢、身分又ハ職業及ヒ住所

第四　結婚者ノ陳述

第五　身分登記官ノ宣告

結婚ニ付キ直チニ配偶者ニ其證書ヲ下附スルモノトス

第五十五條　離婚、婚姻ノ無效又ハ不成立ノ言渡アリタルトキハ結婚ニ付キテ爲シタル登記ノ欄外ニ記入ス可シ

離婚ヲ爲スニ付キ身分登記官ノ面前ニ於テ特別ナル陳述及ヒ認證ヲ要スルノ聯邦成規ハ此法律ニ依リ消滅セサルモノトス

日本學術振興會

第五章　死亡認證

第五十六條　死亡ハ遲クトモ次ノ一週間內ニ死亡地所在區ノ身分登記官ニ屆出ツ可シ

第五十七條　死亡屆ハ家長之ヲ爲スノ義務アルモノトス若シ家長ナキトキ又ハ事故ノ爲メ屆出ヲ爲ス能ハサルトキハ其死亡ノアリシ住居又ハ家ヲ有スル者之ヲ爲スモノトス

第五十八條　第十九條乃至第二十一條ハ又死亡屆出ニ付キ適用ス可キモノトス

死亡ニ付キ職務上ノ搜査アリタル場合ニ於テハ管轄廳ノ書面ヲ以テスル通知ニ因リ登記ヲ爲スモノトス

第五十九條　死亡ノ登記ハ左ノ諸件ヲ具備ス可シ

第一　屆出者ノ姓名、身分又ハ職業及ヒ住所

第二　死亡ノ場所、年月日及ヒ時

日本學術振興會

第三　死亡者ノ姓名、宗旨、年齢、身分又ハ職業住所及ヒ生地

第四　其配偶者ノ姓名又ハ死亡者ノ獨身ナリシ事

第五　死亡者ノ兩親ノ姓名、身分又ハ職業及ヒ住所

以上列記ノ諸件中不分明ナルモノアルトキハ登記ノ際其旨ヲ記入ス可シ

第六十條　埋葬ハ地方警察廳ノ認許ヲ經ルトキノ外死亡帳簿ニ死亡ヲ登記セサル前之ヲ許サス此成規ニ反シテ埋葬ヲ爲シタルトキハ事實搜査ノ後只監督廳ノ認許ヲ經ルトキニノミ死亡ノ登記ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

第六章　航海中ニアル者ノ身分認證

第六十一條　航海中船中ニ於テ出產又ハ死亡ノアリシ場合ニ於テハ此法律ノ成規ニ從ヒ遲クトモ出產又ハ死亡ノ翌日船長ハ二人ノ船舶士官又ハ他ノ信用ス可キ人ノ立會ノ上之ヲ航海日記中ニ登記ス可キモノトス死亡ノ場合ニハ同時ニ其死亡ノ原因ノ推測オモ記入ス可シ

第六十二條　船長ハ其證書ノ認證シタル謄本二通ヲ最初ニ屆ケ得可キ海員管轄廳ニ差出ス可シ其一通ハ海員管轄廳之ヲ保管シ他ノ一通ハ生子ノ兩親ノ住所若クハ死亡者ノ住所又ハ其等ノ最終ノ住所ヲ管轄スル身分登記官ニ帳簿ニ登記スル爲メ之ヲ送達ス可シ

第六十三條　船長ノ死亡又ハ事故アル場合ニ於テハ案針手第六十一條及ヒ第六十二條ニ規定セル船長ノ負フ可キ義務ヲ執行ス可キモノトス

日本學術振興會

第六十四條　船舶其航海ヲ終ル內國ノ港灣ニ入律シタルトキハ直チニ其航海日記ヲ港灣所在地ノ身分登記官ヲ管轄スル監督廳ニ差出ス可シ

監督廳ハ航海日記ニ登記シタル身分證書ノ認證シタル謄本ヲ身分登記ニ送達ス可シ身分登記官ハ之ヲ相當ノ帳簿（第六十二條）ニ登記ス可シ

第七章　身分登記ノ改正

第六十五條　身分帳簿中登記ノ改正ハ只裁判所ノ命令ニ因リ之ヲ爲スコトヲ得其改正ノ記入ハ改正ス可キ登記ノ欄外ニ之ヲ爲スモノトス

第六十六條　改正ノ手續ニ付キテハ聯邦法律ニ特別ノ規定ナキ以上ハ左ノ成規ヲ適用ス可キモノトス

監督廳ハ改正ノ申立アリシトキ又ハ職權ニヨリ改正ヲ必要ナリト認ムルトキハ關係人ヲ聽問シ及ヒ適當ノ場合ニ於テハ新聞紙等ヲ以テ摧告ス可シ而シテ手續ノ終リタルトキハ先ツ之ヲ第一審裁判所ニ差出ス可シ第一審裁判所ハ尙事實上ノ說明ヲ爲サシメ及ヒ適當ノ場合ニハ申立人ヲシテ訴訟ヲ爲サシムル事ヲ得

其他ハ無訟事件ノ規定ヲ適用ス

第八章　結未規定

第六十七條　僧侶又ハ其他宗敎上ノ職ニ從事スル者ニシテ身分登記官ノ面前ニ於テ結婚セシ事ノ證明ヲ爲ス前ニ結婚ノ宗敎上ノ儀式ヲ擧行スル者ハ三百「マルク」以下ノ罰金又ハ三个月以下ノ禁錮刑ニ處ス

第六十八條　第十七條乃至第二十條第二十二條乃至第二十四條第五十六條乃至第五十八條ニ記載セシ屆出ノ義務ヲ怠リタル者ハ百五十「マルク」以下ノ罰金又ハ拘留ノ刑ニ處ス但シ第一ニ屆出ノ義

日本學術振興會

務ヲ負フ者其屆出ヲ爲サヽルモ規定ノ時日内ニ他人屆出ヲ爲ストキハ刑ノ訴追ハ之ヲ爲サヽルモノトス

船長又ハ案針手ニシテ第六十一條乃至第六十四條ノ成規ニ違反シタルトキハ右ノ罰則ヲ適用ス

身分登記官ハ此法律ニ基キ屆出又ハ其他ノ行爲ニ付キ義務ヲ負フ者若シ其義務ヲ怠ルトキハ罰金ヲ科ス可キ警旨ヲ示シ其義務ヲ履行セシムルノ權ヲ有ス但シ罰金ハ各場合ニ於テ十五「マルク」ヲ超過スル事ヲ得ス

第六十九條　身分登記官此法律ノ成規ヲ守ラスシテ結婚ヲ執行スルトキハ「六百マルク」以下ノ罰金ニ處ス

第七十條　此法律ニヨリ徵集スル手數料及ヒ罰金ハ聯邦ノ法律ニ於テ特別ノ規定ナキ限リ身分登記官ノ諸雜費ヲ負擔スル町村ニ屬ス可キモノトス

日本學術振興會

第七十一條　軍人ニシテ獨逸國外ノ兵營ニ屯在シ又ハ出陣ノ爲メ獨逸國ヲ去リ又ハ役ニ服スル軍艦或ハ其他海軍ノ船舶ノ乘組者ニ付キ行フ身分登記官ノ職務ハ皇帝勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七十二條　聯邦國君主及ヒ其一族幷ニ「ホーヘンツオル」候ノ家族ニ付キテノ身分登記官ノ任命及ヒ身分帳簿ノ取扱及ヒ保管ノ方法ハ聯邦君主ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム

結婚豫約者ノ代理及ヒ婚姻ノ廣告ニ付キテハ慣例ニ依リテ之ヲ決ス

其他此等ノ家族ニ付キ家法又ハ慣例ニ基キタル結婚ノ要件及ヒ結婚事件ニ關スル裁判權ノ規定ハ此法律ニヨリテ消滅セサルモノトス

第七十三條　從來身分帳簿又ハ寺院帳簿ノ取扱ヲ爲シタル廳及ヒ官吏ハ此法律ノ實行前ニ登記シタル　產婚姻及ヒ死亡ニ付キ證明書

日本學術振興會

ヲ下附スルノ權及ヒ義務ヲ有スルモノトス

第七十四條　左ノ聯邦成規ハ此法律ニ依リテ消滅セサルモノトス

第一　僧侶及ヒ寺院ノ小吏ハ民事身分帳簿及ヒ民事結婚ノ方式ヲ施行スルニ付キ賠償ヲ請求シ得ル規定

第二　特定シタル人々ニ出產及ヒ屆出ノ義務ヲ負ハシムル規定

聯邦ノ法律ニ從ヒ身分登記官ニアラサル他ノ官吏ノ爲シタル廣告ニヨリテ結婚ヲ許ス場合ニハ其廣告ハ身分登記官ノ爲ス可キ廣告ニ代ルモノトス

第七十五條　外國ニ跨ル寺院區內ニ於テ爲ス出產及ヒ死亡ノ認證并ニ結婚ノ方式及ヒ認證ハ此法律ノ成規ニ從ヒ身分登記官ノ管轄ニ屬セサルモノニシテ現行法律ニ從ヒ僧侶ノ管轄ニ屬スルモノハ其現行法律ニ從フ

千八百七十四年三月九日附ノ宇國ノ法律ノ行ハルヽ領地ニ於テハ

日本學術振興會

該法律實施前ニ行ハレシ法律ヲ以テ現行法律トス

第七十六條　婚姻及ヒ結婚豫約ニ付キテノ爭訟事件ハ專ラ民事裁判所之ヲ管轄ス僧侶裁判權又ハ信仰ニ歸因スル裁判權ハ成立セサルモノトス

第七十七條　從來ノ法律ニ從ヒ夫婦永久寢食ヲ別ニス可キ裁判ヲ爲ス場合ニ於テハ今後離婚ノ言渡ヲ爲ス可シ

此法律ノ實施前ニ於テ夫婦永久寢食ヲ別ニス可キ裁判アリタルトキハ其別居セシ夫婦再ヒ調和ヲ爲サヽル以上ハ各配偶者既濟ノ判決ニ基キ通常訴訟手續ヲ以テ離婚ヲ申立ル事ヲ得

第七十八條　「バイエルン」ニ於テハ此法律ノ實施前訴ヲ許ス決定ノ送達ニ因リ生シタル婚姻爭訟ハ其事件ヲ掌ル裁判所確定裁判ヲ爲スニ至ルマテ從來行ヒ來リシ法律ニ依リ之ヲ取扱フモノトス

第七十九條　此法律ハ千八百七十六年一月一日ヨリ實施ス但シ聯邦

日本學術振興會

政府ノ都合ニ依リ布告ヲ以テ此法律ノ全部又ハ第三章及ヒ第七十七條ヲ右定日前ニ施行スルモ妨ケナシ

第八十條　此法律實施前從來ノ法律ノ成規ニ從フテ爲シタル婚姻ノ廣告ハ其效力ヲ有スルモノトス

第八十一條　此法律實施前ニカヽル出產及ヒ死亡ニシテ實施ノ日未タ登記セラレサルモノニ付キテハ其屆出期限ノ進行此法律實施ノ日ニ始マル可クシテ此法律ヲ適用ス

此法律實施ノ日ニ於テ未タ生子ノ名ノミ登記セラレサル場合ニ於テモ亦同シ

第八十二條　洗禮及ヒ婚姻ノ式ニ關スル寺院ノ義務ハ此法律ニ依リテ消滅セサルモノトス

第八十三條　此法律ノ施行ニ必要ナル規則ハ集議院之ヲ發セサル限リ各聯邦政府ヨリ之ヲ發ス可キモノトス

日本學術振興會

第八十四條　各聯邦ニ於テ如何ナル廳ヲ以テ高等行政廳下等行政廳町村廳町村會議第一審裁判所ト爲スカハ聯邦中央廳之ヲ定ム

第八十五條　千八百七十年五月四日ノ公布ニカヽル外國ニ在留スル獨逸國民ヲ結婚及ヒ身分ノ認證ニ關スル法律ノ規定ハ此法律ニ依リテ消滅セス

帝國宰相ハ獨逸國ノ外交官又ハ領事ニ獨逸國民及ヒ被護人民ノ爲メ其結婚ノ施行及ヒ出產婚姻死亡ノ認證ヲ爲ス權ヲ一般ニ附與スルヲ得

此成規ハ千八百七十五年三月一日ヨリ實施ス

手數料定額表

第壹　第四十九條及ヒ第五十四條ニ依リ又ハ洗禮若クハ埋葬ヲ爲ス爲證書ヲ下附スルトキニハ手數料ヲ要セス

第貳　手數料ヲ要スル場合及ヒ其定額ハ左ノ如シ

日本學術振興會

壹　帳簿ノ展覽ノ爲メ一个年ノ帳簿ニ付キ半「マルク」數年分ナルトキハ多クモ一「マルク」半ヲ超ユ可カラス

貳　第四十三條ニ依ル書面委任帳簿ヨリ認證セラレタル援書謄寫料ト共ニ半「マルク」

數多ノ登記ヲ援書シ之レカ爲メ數年分ノ帳簿ノ搜査ヲ要スルトキハ一个年分毎ニ尙半「マルク」ヲ要ス然レトモ之ヲ合計シテ多クモ三「マルク」ヲ超ユ可カラス

日本學術振興會

繼嗣法附錄

日本學術振興會

第一篇第七章

第三款　嫡庶ノ區別

凡ソ平民間ニテハ公然妾ヲ置ク事ヲ許サヽル法例制ニテ婢女ニ通シテ擧ル所ノ子モ多クハ戸籍上二男三男ト稱スルヲ以テ別段嫡庶ノ區別ナキ事一般ノ通例ナリ其中稍異ナル條款左ノ如シ

東海道

嫡庶子ハ平生待遇ニ於テ區別アレトモ嫡養子事故アルトキハ相續人ニ立ル事モアルナリ（遠江國佐野郡）

庶子ヲ相續人ニ立ル事ハ戸主ノ一存ニテ許サス必ス親類組合ノ協議ヲ要スル例ナリ（遠江國敷知郡）

妻ニ子アルトキハ女子ト云ヘトモ婿ヲ迎ヘ其家ヲ相續セシムル事ナリ若シ事故アリテ妾腹ノ子ヲ立ツルトキハ必ス親族ノ協議ヲ經ルヲ

日本學術振興會

例トス平常待遇上ニ於テハ嫡庶ノ區別ナシ（相模國鎌倉郡）

嫡庶ノ區別ナク總テ年長ノ男子ヲ以テ相續セシムル例ナリ（相模國足柄郡）

東山道

庶子ハ本家ヲ相續セシメサル事一般ノ慣例ナリ（上野國邑樂郡）

庶子ハ嫡子ナキトキニ非レハ相續人トナル事ヲ得ス平民ハ妾ヲ蓄ル事ヲ許サヽル法ナルヲ以テ戸籍上ニハ本妻ノ二三男ト記載スル例ナリ（上野國郡馬郡）

庶子ヲ以テ相續人トスル事ハ親類協議ニ從ヒ戸主ノ隨意ニスル事ヲ得サル例ナリ（磐城國白河郡）

北陸道

本妻ニ男子ナケレハ庶子ト云ヘトモ相續ノ權アル事ナリ（若狹國遠敷郡）

日本學術振興會

平民ニハ妻妾ヲ並ヘ蓄フ事ナシ或ハ外妾ニ出生ノ子アルトモ皆內密ノ取扱ニナシタトヒ本妻ニ子ナクシテ他ヨリ養子ヲ爲スト云ヘトモ庶子ヲ以テ相續セシメサル習慣ナリ（越前國足羽郡）

庶子ハ相續ノ權ナキ者トシ假令他ヨリ養子スルトモ其家ヲ嗣シメサル慣例ナリ（越後國刈羽郡）

庶子ハ年長ト云ヘトモ嫡子ニ先テ相續ノ權ナキ者トスル事一般ノ例ナリ（佐渡國雜太郡）

山陽道

妾腹ノ子ハ年長且賢良ナリト云ヘトモ其家ヲ相續セシメス他ノ養子ニ遣シ或ハ分家セシムル習慣ナリ（安藝國沼田郡安藝郡）

南海道

妾腹ニ長男アリト雖モ嫡出ノ次男相續ノ權ヲ有ス其父若シ庶出ヲ立ント謀ルトキハ嫡妻ノ外戚之ヲ拒ムノ權アリ（河波國名東郡）

日本學術振興會

嫡子ハ年少ト云ヘトモ年長ノ庶子ニ先テ相續ノ權アル例ナリ（讃　妓國香川郡）

日本學術振興會

第二篇第二章　家產相續ノ事

第一款　願屆手續

凡ソ家督相續スルトキハ必ス公儀名ト唱ヘ其家ノ通名ニ改ルヲ以テ高帳名寄帳ノ名ヲ書改ル事ナク宗門人別帳ノ年齡及ヒ隱居セシ父ノ名ヲ書改ル事ニテ實印モ父祖傳來ノ品ヲ用ルヲ榮耀トスル事一般ノ通例ナリ其中稍々異ナル條款左ノ如シ

畿內

村方ニテ家督相續ハ其時々屆出テハ宗門改ノ節ニ其家ノ通稱ニ改メ父祖傳來ノ實印ヲ襲用スル旨申出ル例ナリ町方ニテハ必ス其時々屆出テ町役差添不動產ノ讓狀ヲ持參シ官ヘ出頭シテ割印ヲ受ル事ナリ凡ソ相續ノ權アル男子ハ十七歲ニ至レハ烏帽子親ヲ賴ミ烏帽子著ノ禮ヲ爲ス是ヨリ其町村內ノ諸用ニ干涉スル權アリ二三男ハ部屋住ト唱ヘ此禮ヲ行ハサル者トス（山城國愛宕郡葛野郡）

日本學術振興會

子弟タル者父兄ノ跡ヲ相續スルトキハ親族幷ニ本人ヨリ該町年寄ヘ
屆出レハ町年寄之ヲ總年寄ニ申出テ家屋敷讓渡ノ證書ニ親戚幷ニ町
内五人組所町役人連署シテ其相續人ノ水帳ヲ切替ル例ナリ（和泉國
大鳥郡）

家督相續スルトキ地所持ハ町方ヘ屆出テ水帳ニ代替ノ手續ヲ記載ス
家持ニ非サル者ハ町方ヘ屆出ルノミナリ（攝津國西成郡）

東海道

家名相續スレハ役場ヘ屆ケ公儀名ト唱ヘテ其家ノ通稱ニ改メ其印形
ハ世々改ムル事ナキ例ナリ或ハ通稱ニ改メサル者アレトモ名寄帳ハ
其儘差置ク事ナリ（駿河國安部郡有渡郡）

家名相續スルトキ別ニ屆ノ事ナシ戸主六十ニ至レハ一戸人別帳ノ末
ニ書改メ自然ニ隱居ノ委トナル例ナリ其家ノ印形ハ異代改メサル者
トス（駿河國志太郡益頭郡）

長子婚姻スレハ直ニ相續人トナリ其家ノ通稱ヲ繼キ前戸主ハ適宜
ノ名ニ改メ其者役場ヘ屆ル事ナリ（相模國鎌倉郡）

家督相續ハ從前地主ノ分ハ券狀繼書寛政度仕來ノ通リ町内ヘ公告
ヲ爲セリ維新後ハ地券書替ヲ願フノミニテ公告等ノ手續ナシ（武
藏國豐島郡）

所有地面持株及ヒ家產ハ戸主死去男子ナク後家娘等ノ名前ニテ後
見ヲ定メ所持スル分ハ養子整次第其者名前ニ書替ルヲ例トス故ニ
ナク延引スルトキハ所役人心付ケ改メシムル事ナリ住居地ハ相續
人名前ニ改ル事近來ノ法ナリ（武藏國豐島郡）

古來町奉行所ヨリ申渡ニテ生前ノ日遺跡相續ノ者ヲ定ルトキハ町
年寄方ニ設ケアル遺跡帳ヘ記載スヘキ旨享保六年町觸モアレトモ
中古以來遵奉スル者稀ナリ（武藏國豐島郡）

相續ヲ判讓ト唱ヘ其家ノ通稱ニ改メ累代ノ印形ヲ用ル例ニテ隱居

日本學術振興會

ノ父ハ改名スル事ナリ（下總國印藩郡）

東山道

讓狀アル者ヲ以テ相續人ト定メ別段屆ノ事ナシ村方ニテハ長男十六歳ニ至レハ村中ノ大老ヲ招キ元服シテ幼名ヲ改ムヽ之ヲ烏帽子（エボシ）著ト唱フ此時相續ノ權定ル事ニテ別段相續ノ屆ナシ（近江國滋賀郡）

代替ハ宗門改ノ節ニ一（イチウチカヘ）打替ト唱ヘ戸主ノ名ヲ改ル事ニテ大抵累代ノ通稱ヲ用フル例ナリ（近江國犬上郡）

代替ノ節ハ其時々役場ヘ屆出テ不動產所有ノ名前ヲ書改メ百日ヲ過テ宗門帳ノ名ヲ書改ル事ナリ（美濃國安八郡）

父沒スルカ又ハ隱居スル節其相續人ハ村役所ヘ屆ケ十二八九ハ父ノ通稱ヲ繼キ改名スル例ナリ（信濃國佐久郡）

家督相續ハ父隱居スルモノハ父ヨリ屆ケ父沒シテ其子家名ヲ繼モノハ其本人ヨリ屆クル事ナリ（信濃國小縣郡舊記）

百姓跡目ノ儀老若ニヨラス病中書置イタシ庄屋組頭加判取置死後ノ爭論ナキヲ要ス跡目無之書置ノ心掛ナキ者アラハ庄屋組頭親類組合等立合病人ヘ申含メ所存書付取置クヘシ不慮ニ死スルトキハ所持ノ品々役人立合ノ上帳面ニ記シ親類緣者ノ内ヘ預リ置筋目ノ者ヘ跡目ヲ引渡スヘク未期ニ至リ一判ノ讓狀ハ其效ナキ事ナリ（信濃國小縣郡）

父死去又ハ隱居スル節ハ其長子戸主タルヘキ旨願書ヲ認メ五人組連印該町名主ヲ經テ町方役所ヘ差出シ許可ヲ得テ後其段ヲ公告スル事ナリ（信濃國埴科郡）

跡目幷ニ遺物分配ノ事ハ其身存生中親族幷ニ其所ノ庄屋組頭ニ告ケ證文ニ記載シ庄屋組頭之ニ加印ス死後證文ナキ跡目爭論ハ受理セサル法ナリ（信濃國高井郡）

日本學術振興會

新戸主ヨリ役場ヘ印鑑ヲ出シテ相續ヲ屆ケ父祖ノ通稱ニ改ムルヲ例トス（下野國都賀郡）

相續スレハ判頭ト唱ヘ役場ヘ屆ク宗門改トキ取纏テ官ヘ差出ス事ナリ毎歲末年貢納ノ節ニ其名ヲ書改ル法ナリ（磐城國白河郡）

家名相續スレハ其屆ヲ爲シ役場ニテ記帳シ翌年人別改ノ節官ヘ屆ク相續スレハ其家ノ通稱ニ改ル例ニテ不動產帳面ハ書改ル事ナキ例ナリ（岩代國信夫郡）

平民ニハ隱居ト云フ事ナシ父死去シテ子相續スレハ役場ヘ屆出テ役場ニ於テ諸帳面ノ名前ヲ書改ル事ナリ（岩代國會津郡）

近親中一人組合中一人家督ヲ讓ル本人讓リ受ル本人連印ノ書面ヲ以テ名主ヘ屆ケ聞濟ノ上軒帳（屋敷並ノ大略ヲ記シタルモノニテ毎町ニアリ見圖帳ノ外ナリ）ヲ書替追テ名主ヨリ口上ニテ町奉行ヘ申出テ町奉行所ニアル軒帳ヲ書改ムルヲ例トス（陸前國官城郡）

相續ノトキ實子ハ屆ナシ養子ナレハ相續ノ屆ヲ爲ス必ス其家ノ通稱ニ改ル例ナリ（陸中國膽澤郡）

平民ニハ隱居ノ名義ナシ死去相續ハ別段屆ヲ爲サス多クハ家ノ通稱ニ改ルヲ以テ不動產所有ノ名ヲ書改ル事ナシ（陸中國岩手郡）

戸主死去ノ外相續ト云事ナシ死去スレハ其家名ニ改稱スル例ニテ別段屆ノ事ナシ（陸奥國津輕郡）

父隱居又ハ死去ノ後（隱居ナレハ直ニ屆ク死去ナレハ五十日目ニ屆ク）家督相續スレハ口上ヲ以テ組頭ヘ屆出テ組頭ハ之ヲ檢斷ヘ屆出テ檢斷ニテハ帳簿ヘ記載シ置キ毎年二月十日人別取調ノ節檢斷連印ヲ以テ宗門奉行ヘ屆出ツル事ナリ（羽前國置賜郡）

養子ノ外ハ相續ノ屆ナシ相續スレハ其家ノ通稱ニ改ルヲ以テ不動產所有權ノ名前ヲ書改ル事ナシ（羽前國村山郡）

家名相續スレハ役場ニ備ヘ置ク所ノ戸籍帳ニ調印ス町村吏ニ於テ六

日本學術振興會

月人別改ノ節官ニ屆ル例ナリ（羽前國田川郡）

願屆等ノ事ナシ父死去スレハ其儘家督相續人トナリ宗門改ノ節肝煎ニテ戸主ニ書改ムルノミ（從前十ノ七分ハ祖先ヨリ一名ヲ襲用ス父三ノ右衛門ト稱スレハ其子亦三右衛門ト稱ス）古來ヨリ戸主隱居ノ例ナシ故ニ家督ハ父死去ノ後ニ限レリ現今ハ父死去ノ旨ヲ屆クルノミニテ自然家督トナル例ナリ（羽後國秋田郡）

北海道

家名相續スレハ役場ヘ屆出ル事ナリ（渡島國龜田郡）

北陸道

家名相續スレハ必ス其家ノ通稱ニ改ルヲ以テ例トス隱居セシ父ハ名ヲ改ル例ナレトモ宗門帳ニハ單ニ父トノミ記スヲ以テ其事ヲ屆出ル者ナシ（越前國敦賀郡）

家督相續ハ町會所ニ於テ親人ト相續人トノ連署ノ證書ヲ見屆ケ然ル後戸籍ニ記載ス就中戸主ハ必ス存生中遺言狀ヲ組合ヘ差出シ置ノ慣例ニ因リ家督相續ノトキハ其遺言狀ヲ出シ前主ノ遺言狀ト更換セシム戸主死後ノ相續ハ其存生中出シ置キタル遺言狀ヲ肝煎ノ面前ニテ親族及ヒ組合頭立合ニテ披ラキ（方言之ヲ遺言披ラキト云フ）肝煎之ヲ見屆ケ萬一不當ナルトキハ町奉行ニ屆テ裁決ヲ請ルノ慣例ナリ（加賀國石川郡）

農民存生中ハ家督讓渡ヲ許サヽル藩制ナリ又方言ニ公儀名ト唱ヘ該家先代ノ名ヲ以テ歷代相續スルノ悔例ニ因リ戸主死去スレハ親族協議ヲ遂ケ其長男ヲ公儀名ニ改メ跡式相續方其筋ヲ經テ出願許可ヲ得テ相續スル事ナリ（加賀國石川郡）

戸主死後七日ヲ經テ遺書披キト唱ヘ死者ノ遺書ニ親族連印セシ相續ノ願書ヲ添ヘ官ニ出シ相續スルヲ例トス（加賀國江沼郡）

嫡男幼少ナル故ヲ以テ戸主存在中其妻ヘ家名ヲ繼カセ度旨ヲ親族及

日本學術振興會

ヒ組合ヘ遺言シタルトキハ其妻後家名前ヲ以テ相續致サセ度旨町奉行ノ許可ヲ請クル事ナリ戸主亡後ハ惣テ遺言狀ヲ以テ證トシ相續人ヲ定ル例ナリ（加賀國能美郡）

戸主死スレハ長男其亡父ノ姓名ヲ名乘リ自然ニ相續スルヲ以テ死去ヲ屆テ相續ヲ屆サル例ナリ若嗣子ナキトキハ家族親戚協議ノ上相續人ヲ定メ奉行ヘ願出ル例ナリ亡戸主ノ遺言狀ナキトキハ假令長男癈疾ト雖モ二三男ヘ相續ヲ讓ル事ヲ許サス（能登國羽咋郡）

戸主存在中嫡男ヲ他ヘ養子ニ遣シ次三男ヲ嫡男ニスル事ハ必ス官許ヲ受クルヲ要ス又戸主子ナクシテ沒シ其妻ヘ夫ヲ迎ヘ相續スル事ハ亡戸主從弟以上ノ親族幷ニ本末家連署官許ヲ受クルヲ例トス（能登國鳳至郡）

戸主タル者ハ遺言狀ト稱シ存生中豫メ死後ノ相續人ヲ定メ之ヲ書面ニ記シ封印シ該町役人ヘ出シ置クヲ例トス戸主沒スルトキハ親族隣

日本學術振興會

保役人立會ノ上之ヲ開キ其驗遺言ニ據リ相續人ヲ定ムル事ナリ但遺言狀中跡相續ノ事ヲ記載セサルカ又ハ白紙ナルカ又ハ遺言狀差出サヽル內死去スルトキハ更ニ親族商議ノ上相續人ヲ定ムル事ナリ（越中國射水郡）

町方ニテハ戸主存生中一存ヲ以跡相續人見込ノ者ヲ封書ニ記シ封シ目ニ組合ノ者印章ヲ捺シ組合頭ヘ差出置ク慣例ナリ戸主死後一七日又ハ二七日　位ニ親族協議シ長男ニ家督相續セシムルトキハ右ノ遺言狀ヲ用ルニ及ハス若シ長男家督ノ事親族協議整ハサルトキハ親族幷ニ組合立合右ノ遺言狀ヲ開封シ遺言ノ如ク相續人ヲ定ノ組合頭引受書面ヲ以町奉行役所ヘ屆ル事ナリ（越中國礪波郡）

平民ハ隱居ノ名義ヲ許サヽルヲ以テ死去セサレハ相續ト云事ナシ實印ハ父祖傳來ヲ貴フ習慣ナリ（越後國刈羽郡）

山陰道

日本學術振興會

戸主死スレハ別ニ相續ノ届ナク役場ニ於テ直ニ其長男ヲ以テ戸主ニ書改ノ戸主隱居スルトキハ其届ヲ待テ書改ル例ナリ改名スルトキハ其役場ヘ届出ルヲ例トス（丹後國與謝郡）

家名相續スルトモ其時々届出テス宗門改ノ節届出テ戸主ノ名ヲ改ル事ナリ町方ニテハ亭主替ト唱ヘ戸主改レハ必ス届ル法ナリ（因幡國邑美郡）

家拵ニ限リ死後相續ハ勿論隱居家督トモ代替ノ節ハ家譜簿受ノ願書ニ組合連印ヲ以テ差出シ奉行所大目代町年寄所ノ家帳（人別所持地記載ノ帳ナリ）直シニナリ爾後官ヘ對スル事ハ其名前ニ改ムル事ナリ尤長男ヲ除クノ外二三男兄弟養子等ニテ戸主ニナル時ハ五人組ノ外親類ノ一名加判ヲ以テ願受願差出ス例ナリ（出雲國島根郡）

山陽道

家相續ノトキハ官ヘ願出テ許可ヲ受ル例ナリ新ニ印形ヲ作ル者ハ印鑑ヲ出スヲ法トス累代ノ印ヲ襲用スル者ハ此手數ナシ（播磨國飾東郡）

父隱居家督相續ハ年寄ヘ申出テ年寄ヨリ大年寄ヘ届ク死後相續ハ別段届出テス死去届ヲ出ス者ヲ以テ戸主ト見做ス事ナリ（死者ノ届ハ必ス相續人タル者届出ル例ナリ）〇美作國北條郡

相續スルトモ一家ノ協議次第ニテ別段吹聽スル事ナシ故ニ役場ニテ書改ル事ナク其家ノ通稱ニテ何百年ニテモ其儘差置ク事ナリ（備後國御調郡）

戸主變スルトモ其時々届出テス人別改ノトキニ書改ムルノミ家屋敷地ヲ相續スルニハ帳切ト唱ヘ奉行所ヘ自身出頭シテ調印スル例ナリ（安藝國沼田郡安藝郡）

南海道

家名相續スルトキハ別段届ナシ宗門改ノトキ戸主ノ名前ヲ書改ルノ

日本學術振興會

ミナリ町方ニテ不動産相續ハ官ノ許可ヲ得ル例ナルヲ以テ隱居讓ハ
前戸主ヨリ願出ルノミナレトモ死去讓ハ必ス證人ノ調印アルヲ要ス
父死去後五十日内ニ願出テ水帳ヲ書改ルヲ法トス若シ事故アリテ延
滯スルトキハ豫メ其情實ヲ屆出ル例ナリ村方ニテハ官ヘ屆ル事ナシ
（紀伊國名草郡海部郡）
家相續スレハ役場ヘ屆ケ宗門改ヘ屆ケ宗門改ノトキ書改ム町方ニテ
相續ノトキハ組合連印ノ願書ヲ出シ町奉行許可ノ書面ヲ渡ス例ナリ
（伊豫國宇和郡）
平民ハ唯名前附替ト唱ヘテ其所役人ヘ願出ル迄ノ事ナリ所有田畑ア
ル者モ亦名前附替ヲ願出ル例ナリ鄕士ハ存生中長男某養子某ヘ相續
爲致度旨願出テ（鄕士ハ元來株ノ賣買ヲ許サヽルモノナリ）而シテ後
隱居家督ヲ命セラルヽ事ナリ（隱居家督ハ元家老ト鄕士ノ外ハ許可
ナキ事ナリ鄕士ト云者ハ山林又ハ荒蕪地三町以上ヲ開墾スレハ其地

日本學術振興會

ヲ所有セシメ植物ハ全ク所有主ノ所得トナセシカ維新後始メテ十ノ
二ヲ官ヘ納ムル事トナリ）○土佐國吾川郡

西海道

六十歳以上ノ隱居ノ式ヲ爲サヽルヲ以テ役場ニテ隱居ト見做シ戸主
ノ名ヲ書改ムル例ナリ新戸主タル者父生前ハ其家ノ通稱ニ改メサル
例ナリ（豐前國下毛郡）
戸主死スレハ役場ノ見込ニテ其長男ヲ戸主ニ書改ル例ナリ隱居ト云
事ナシ（豐後國大分郡）
一家相續スレハ必ス屆出テ役場ニ於テ帳面ヲ改ム相續人ハ其實印ヲ
改刻スルヲ法トス若シ國ハサルトキハ當分先代ノ品ヲ用ル旨申出ル
事ナリ（豐後國速見郡）
長子二十歳以上ニ及ヘハ庄屋年寄協議ノ上宗門帳ニ戸主ト定メ其父
ハ隱居ノ參ニ取計フ例ナリ戸主タル者モ一村中ノ防害ヲ爲ス所行ア

日本學術振興會

ル者ハ亦役場ノ權ニテ隱居セシムル事アリ（日向國宮崎郡兒湯郡）

家督相續ハ六七年目ニ人別改ノ節役場ニテ取纏ノ官許ヲ得テ名前ヲ改ル例ナリ相續人ハ終身其名ヲ稱シテ父祖ノ名ニ改ル者稀ナリ（大隅國贈唹郡）

第二款　相續ノ權

凡ソ相續ノ順序ハ戸主ノ見込次第ニテ長男ヲ分家シ幼子ニ相續セシムル等其例多シト云ヘトモ長男ヲ以テ相續人ト定ル事一般ノ通例ナリ其中稍々異ナル條款左ノ如シ

參河

長男事故アリテ二三男或ハ他人ニ相續セシムルトキハ戸主ヨリ豫ノ願狀ヲ差出シ官ノ檢印ヲ受ケ役場ニ預リ置ク事ニテ其權ハ戸主ノ見込次第ナリ死後ノ願狀ニハ親類三人ノ證印アルヲ法トス（山城國愛宕郡葛野郡）

東海道

相續ノ權ハ長男ニアリ村方ニテハ耕業ヲ勵マス爲メ長男ヨリ順々ニ分家セシムル事多シ皆戸主ノ見込ニ從テ適宜ノ所分ヲ爲ス事ナリ（尾張國愛知郡）

男女ニ限ラス總テ年長ノ者相續スルノ權アリ（伊豆國田方郡）

男女ニ限ラス先ニ生レシ者相續スル風習ナリ（常陸國新治郡）

東山道

長男ハ家督相續ノ權ヲ有スト雖モ父ノ意ニ協ハサルカ或ハ二三男ヲ分家セシメテハ若年破產ノ惡アルヲ以テ長男ヲ分家セシメ本家ハ父自ラ幼兒ヲ敎育シテ相續セシムル事アリ然ルトキハ其財產ヲ分割スル衆子ヨリ多キヲ例トス（信濃國佐久郡）

男子ノミ相續ノ權アリ女子ハ總領ト雖モ相續ノ權ナシ若シ兄早世スレハ二番ノ姉相續セス三番ノ弟相續ス若シ先相續人ノ子アリテ幼年

日本學術振興會

ナルトキハ先相續人ノ姉又ハ妹ヘ婿ヲ取リ幼者ヲ順養子トスル事アルナリ（陸前國宮城郡）

農家ニテハ長女アレハ婿ヲ迎ヘテ相續セシムルヲ例トス力役ノ便利ニ從フナリ（陸中國膽澤郡）

相續ノ權ハ嫡男ニアリ嫡男死スルトキハ嫡孫ニアリ若シ幼少ニシテ一家ヲ保チ難キ節ハ伯叔父母ノ内相續シテ其幼者ヲ順養子トナス事ナリ但父隱居家督ヲ其子孫ニ讓リテモ家財ハ悉ク讓ラス後日ニ至リ内證身代共讓ルヲ鍵讓リト名付ル事アル例アリ（羽前國置賜郡）

家產相續ハ男女ニ拘ラス初生ノ總領ヲ以ス若シ總領早世スルトキハ亦男女ニ拘ラス第二第三ト順ヲ以テスル事ナリ（羽前國置賜郡）

農家ニテハ男子アル者モ長女アレハ婿養子ヲ迎ヘテ相續セシム力役ノ勞ヲ分ツカ爲ナリ（羽前國田川郡）

男子ヲ以テ相續スルヲ例トス若シ男子幼少ニシテ相續ナシカタキ時ハ姉ヘ聟ヲ迎ヘ其男子ヲ順養子トシ姉ニ子アリト雖トモ姉ノ子ヲ以テ相續セシムル事ヲ得サル例ナリ（羽後國秋田郡）

北陸道

戸主沒後其寡婦後夫ヲ迎ヘ入婿ト唱ヘ其幼子女ヲ入婿ノ實子ト做シ成ヘノ後其家名ヲ相續セシムル事アリ若入婿男女子ヲ擧ルトモ相續ノ權ヲ移ス能ハサル慣例ナリ（加賀國河北郡）

父死去スレハ其嫡男死去スレハ嫡孫之ヲナス若シ正系ノ者ナキトキハ其關係ノ次三男順序ヲ以テ相續ヲナスノ權ヲ有スル例ナリ（越中國射水郡）

町方ニテハ亡戸主ノ遺書アレハ女子ニモ相續スル事アリ村方ニテハ男子ニ限ル慣例ナリ（越中國礪波郡）

相續ハ通例必ラス男子ヲ以テス若シ女子ノミニテ戸主ノ弟アルトキハ其弟ヲ相續人ト爲シ其女子ハ相續セサル例ナリ（越後國蒲原郡）

日本學術振興會

相續ハ必ス男子ヲ以テシ子孫相承ケ兄弟相傳ヘサルヲ例トス又夫死後遺子十歳以下ナルトキハ其妻戸主トナリ某亡夫ノ名後家ト宗門人別帳ニ記載シ又ハ妻後夫ヲ迎ヘ後夫ヲ戸主トナシ前夫ノ遺子ヲ後夫ノ相續人トナス例モアリ（越後國頸城郡）

山陽道

婦女ニテ跡目相續スル間ハ何某跡何々又ハ娘何々ト人別帳ヘハ掛ケ紙ニシテ記載スル事ナリ（長門國阿武郡）

南海道

男子ナキトキハ女子タリトモ相續スルノ權アリ夫死去スルトキハ其妻何某後家ト稱シ相續スル事アリ又何某娘ト稱スル事モアル例ナリ（淡路國三原郡）

相續ノ權ハ長男ニアリト雖モ鄉村ノ者ハ中等已上長男二男三男トアレハ長二男トモ多クハ別家セシメ末子ヲ以テ本家相續セシムル慣習アリ（土佐國土佐郡）

西海道

村方ニテハ長男ヲ分家セシメ二三男ニ相續セシムル事多シ（日向國臼井郡）

日本學術振興會

民法相續編ニ關スル意見

日本學術振興會

日本學術振興會

頃日、委員長閣下民法人事ノ草案ヲ分付シテ、各自ノ意見ヲ促カセリ、余、既ニ之ニ對シ一小冊數十箇條ノ鄙見ヲ具セリ、今復タ取得第二部草案ノ是非ヲ聽カル、余不肖ナリト雖モ委員ノ職ヲ忝クスレハ自ラ默々スル能ハス、敢テ管見ヲ具陳セサル可ケンヤ、惟フニ此ノ二案ハ則チ民法成典中ノ樞要ナリ、骨體ナリ、就中此案ハ樞要中樞要、骨體中ノ骨體ナルモノナラン、苟モ法ニ志アル者民法ヲ繙カハ、則チ先以テ其目ノ注ク所一ニ此ニ在ラン乎、抑々相續ト贈產トハ、人々ノ得失關係、之ヨリ重且大ナルモノナシ、之ヲ得ル者ハ榮ヘ、之ヲ失フ者ハ衰フ、古來君父ヲ殺逆シ、骨肉相鬩ヒ、其宗ヲ僭シ、其財ヲ奪フ者、史籍ニ赫々タル事、勝テ數フ可ラス、是故ニ法ヲ立ル者ハ、能ク習俗ヲ測リ、能ク人情ヲ酌ミ、實的ヲ先ニシテ、而テ風采ヲ後ニシ、偏セス、黨セス、反覆議量スルニ非スシテ叨リニ外制ヲ援引シテ、邦國固有ノ情態ニ反シ親子夫婦ノ大倫ヲ紊リ、

日本學術振興會

順逆其處ヲ異ニスレハ棄親愛賛ノ風、稍ク浸潤シテ遂ニ天下到ル處、士ニ廉ナク、民ニ信ナク、唯タ利ヲ視テ互ニ喧鬪シ、家ニ在テハ毫利ノ爲メニ、父子相爭ヒ、夫婦相責ルニ至ラン、豈慨レサル事ニ非スヤ、豈慎マサルヘケンヤ、今國家ニ大典ヲ施クニ當リ、一朝程度ヲ錯リ、士民ヲシテ呑恨刻骨ノ思ヲ懷カシマハ、千載臍ヲ噬ムモ及ハス、已ニ此案ヲ閣スルニ親子夫婦其貨財ヲ重ンシ、其信義ヲ輕ンスルノ感アリ、自ラ慨嘆シテ止マス、仍テ余忌諱ヲ憚ラス、愚闇ヲ顧ミス、大ニ　ヲ試ミ、排斥スル者合計百有餘件之ヲ別冊ニ綴テ以テ閣下ノ尊嚴ヲ干瀆ス閣下亦之ヲ察セヨ恐惶頓首

明治二十三年三月　　法律取調委員村田　保

法律取調委員長伯爵山田顯義殿

財産取得篇第二部

第二百八十六條　以下諸條ニ記スル相續發開ノ文字ハ人事篇ヲ除クノ外財産篇及ヒ其他ノ篇ニ於テ相續「發開」トハ穩當ナラストノ決議ニテ遂ニ發開ノ文字ヲ悉皆削除シタリシニ由リ參考ノ爲メ申述ス

第二百八十九條　自殺ニ關スル罪、遺棄罪、毆打致死罪ヲ加ヘテハ如何

本條第一號ハ佛民法第七百二十七條ニ依リ被相續人ヲ故意ヲ以テ殺害シ又ハ殺害センントシテ刑ニ處セラルルモノニ止メタリ然レトモ一家ノ秩序ト及ヒ被相續人ト相續人トノ關係ニ着眼セサル可ラサルモノアリ彼ノ相續人教唆ヲ用ヒテ被相續人ヲ自殺セシメシ如キ其老疾セル者ヲ遺棄スル如キ毆打致死ノ如キ皆ナ被相續人ニ對シテハ重大ノ所犯ニシテ一家ノ安寧ヲ損スル之ヨリ

日本學術振興會

甚シキモノナシ而シテ被相續人ノ一方ニ於テモ自己ヲ死ニ致サシメ又ハ遺棄スル如キ者ニ相續ヲ爲サシムルハ其意ニ非サルヤ言ヲ俟タサルナリ又本條第三號ノ如キ單ニ告訴告發セサル如キ者モ尙ホ相續ヨリ除斥セラルルニ尙ホ之ヨリ重大ニシテ且ツ自ラ下手シタル以上ノ數罪ニ於テハ當然除斥ノ條件ト爲ササル可ラサルナリ然リ而シテ第二百九十一條第一號明示ノ宥恕ノ一項アレハ遺棄罪ノ如キハ被相續人ノ自由ニ除斥ノ訴權ヲ消滅セシムルヲ得ルナリ

第二百九十一條　第一號宥免ヲ免除ト爲シ及ヒ第二號ノ時效ノ最長期ヲ三十ケ年ト爲スヘシ

抑モ本條第二號ノ時效ヲ十ケ年ト定ムルハ治罪法ニ依リ私訴公訴權ノ消滅ノ時效ヲ以テ除斥訴權ノ消滅ニ適合セシメタリ然レトモ十ケ年ヲ以テ時效トスルトキハ第一百八十九條第一號ノ如キ死刑無期刑者カ當然相續權ヲ回復スルモ刑法上ノ時效ハ死刑ハ三十ケ年無期刑ハ二十五ケ年ナレハ一方ニテハ時效ヲ得テ權利ヲ得ルモ一方ニテハ時效ノ經過中ナレハ捕縛次第死刑者ハ絞首セラレ無期刑者ハ刑場ニ送遞セラルヘシ是レ甚タ不都合ナラスヤ因テ三十ケ年トスルトキハ刑ノ執行ヲ免レタルモノモ公訴ノ時效ヲ得タル者モ共ニ之ヲ包含スレハ右ノ如キ不都合ヲ生スル事ナカルヘシ

第三百三條　第三號聾啞盲ハ人事編第三百二十九條ニ依リ聾啞者、盲者、ト改メ及ヒ

第六號　家資分散ヲ「破産」ト改ム

理由　商法及ヒ財産篇其他ノ篇ニ於テ破産ト爲シタリ且此案ニテモ後ニハ（三四〇）破産トアレハ之ヲ同一ニ爲スヘシ

第三百七條及ヒ第三百八條ヲ合セテ一條ト爲シ左ノ如ク修正ス

日本學術振興會

法定及ヒ指定ノ家督相續人アラサルトキ又ハ指定ノ家督相續人カ相續ヲ拋棄シタルトキハ親族會ハ被相續人ノ家族中ヨリ左ノ順序ニ依リテ家督相續人ヲ撰定ス可シ

第一號　以下此案ノ如シ

理由　前戸主タル者トハ何人ソ蓋シ戸主ノ位ヲ讓リテ隱逸シタル者ニアラスヤ是レ世ノ塵埃ヲ避ケ俗務ヲ脫却シテ終生流水ニ從ヘントスルノ目的ヲ以テ總テノ人事ヲ拋擲シタルモノナリ卽チ生キナカラ死セルカ如シ然ルニ白頭踉腰ニシテ再ヒ己レヨリ年弱ノ者ノ家督ヲ相續シ意氣揚々トシテ故舊ニ面スルハ恰モ老媼カ白粉紅花ヲ粧フテ壯士ニ嫁スルカ如シ其愧亦尠カラスヤ然ノミナラス法律ヲ以テ之ヲ許サハ非常ノ弊害ヲ生スル事アラン何トナレハ戸主タル者巨万ノ負債ヲ起シ之ヲ完濟スル能ハサル事ヲ知ラス相續人ト陰謀シ己レ讓產シテ義務ヲ免レ相續人限定受諾ヲ爲シ其後好期ヲ量リテ再相續ヲ爲ス其是レ實ニ不都合ナラスヤ因テ讓產者ニハ再相續ヲ許サルヲ可トス

第三百十一條　無期又ハ終身年金權ト改ム

理由　財產篇其他ノ篇ニ於テハ大抵無期又ハ終身年金ト爲セリ是レ無期年金ト終身年金トハ其性質カ異ルモノナリ取得篇第百六十四條以下及ヒ第百九十一條以下ヲ對照スヘシ

第三百十三條　癈疾ヲ「疾病」ト改ム

理由　癈疾ハ篤疾ニ對スル毆打創傷ノ區別ナレハ財產編及ヒ人事篇等之ヲ疾病ト改メタリ

第三百十四條ノ住所ノ下「又ハ居所」ヲ加フ

理由　例ヘハ讓產者對馬國ニ住所ヲ有シ東京ニ居住シテ讓產ヲ爲スニ對馬國ノ區裁判所ニ申請ヲ爲スハ余リ迂遠ナラスヤ且此場合ニ相續發開地ハ東京ナリ東京ノ管轄區裁判所ニ於テ相續一切ノ事

日本學術振興會

務ヲ管掌スルヲ當然トス

第三百二十條　削除

理由　人事篇第三百七十條ハ相續シテ戸主ト爲リタルトキハ身分取扱人ニ屆出ツヘキ場合ナリ況ヤ讓產ノ場合ニ屆出ツヘキ事ハ該條ニ明記セリ而ルニ本條ニ於テ第三百七十條ノ手續ヲ爲ス可シト特ニ記スルトキハ家督相續ノ場合ニモ亦特ニ記サヽル可ラス因テ本條ヲ設ルノ要用ナケレハ削ル

第三百二十四條　左ノ別項ヲ設ク

遺產相續人ニシテ相續ヲ拋棄スルノ權利アル數人中ニ拋棄ヲ爲シタル者アルトキハ拋棄ヲ爲サヽル者ハ被相續人ヨリ自己ノ相續ス可キ部分ノミヲ相續ス其拋棄ヲ爲シタル者ノ部分ハ被相續人ノ父母又ハ戸主順次ニ之ヲ相續ス

理由　本條ニ於テハ卑屬親カ悉ク相續ヲ拋棄シタル場合ヲ定メタリ故ニ其內一人タリトモ相續ヲ爲セシ者アルトキハ被相續人ノ父ハ之ヲ相續スル事能ハサルカ如シ此場合ハ如何處分スルカ若シ三人ノ相續人アルトキ一人カ相續ヲ受諾シテ他ノ二人カ拋棄セシトキハ受諾セシ一人カ他ノ二人ノ分マテモ相續スルヤ或ハ他ノ二人ノ拋棄セシ分ハ被相續人ノ父又ハ母又ハ戸主ト順次ニ之ヲ相續スヘキモノナルヤ甚タ判然セス法律ハ孰レトモ之ヲ定ルヲ得ヘシト雖モ遺產相續ノ性質ヲ熟考シ且第六百條ノ精神ヲ見ルニ拋棄シタル分ハ父母戸主順序ニ相續スルヲ法意ニ適スルモノノ如シ因テ其主意ヲ以テ右ノ如ク設定シタリ

第三百二十五條ニ別項ヲ設ク

入夫又ハ婦家ニ在リテ死亡シテ同居ノ卑屬親アラス又ハ卑屬親カ拋棄シタルトキハ其遺產ハ婦之ヲ相續シ婦アラス又ハ婦カ拋棄シタルトキハ戸主之ヲ相續ス

日本學術振興會

理由　第五百四十一條以下ニ入夫ノ特有財産ニ係ル權利義務ヲ定メタレハ入夫ノ死亡ノ場合ニ其特有財産ニ於ケル相續ハ何人カ之ヲ繼承スルカ其明文ナケレハ入夫死亡ノ際ニハ或ハ他家ニアル前妻ノ子又ハ私生子カ之ヲ相續スルノ權利アルモノト解釋ヲ下ササル事無キヲ保シ難シ何トナレハ若シ入夫婚姻ヲ爲ササリシカ又ハ離婚セシナラハ各其遺産ニ付キ權利ヲ有ス可カリシモノナレハ入夫死亡ノ際ニハ其遺産ハ復歸シテ各自ノ權利モ回復スルモノナリトノ說ヲ爲スモノアリテハ此法ヲ設クルノ精神ニ背戻スルモノナレハ後日此點ニ付キ爭ヒナカラシメン爲メ法律ニ明文ヲ掲ケ豫シメ之ヲ防クニ若カスト思慮ス因テ特ニ別項ヲ設ケタリ

第三百二十六條　削除

理由　養料ハ法律上ノ義務ニシテ之ヲ給スヘキ者カ死亡スルトキハ從テ消滅スヘキモノナリ若シ相續人カ其義務ヲ負擔スルニ至テハ法律上義務ナキ者カ養料ヲ給シ及ヒ權利ナキ者カ養料ヲ受クルノ結果ヲ生シ法律上ノ義務ト云フヘキモノニ非サルヘシ（財産篇第三百八十條參觀スヘシ）既ニ人事編第二十二條ニ養料ヲ給スヘキ者カ死亡シタルトキハ其義務ノ消滅スヘキ事ヲ定メタリ然ノミナラス本條ハ人事編第二十二條ト抵觸スルモノト認ムレハ削除セリ

第三百二十八條　第一項ヲ削除シテ第二項ヲ修正スヘシ

理由　財産篇第二十三條ニ其規定アレハ削除シタリ

第三百三十二條　讓産ノ上「法定家督相續人及ヒ」ノ數字ヲ加フ

理由　法定家督相續人モ固ヨリ限定ノ受諾ヲ爲スヲ得サレハ相續財産ヲ調査スルノ必要ナシ而ルニ讓産相續トノミアリテ法定家督相續人ヲ除キタルトキハ法定家督相續人ニハ本條ノ期間ヲ

日本學術振興會

要スヘキカ如ク見ユレハ明カニ法定家督相續人ヲ加ヘタリ

第三百三十五條「日用ノ飲食品」ヲ「日用品」ト改ム

理由　飲食品ニハ薪炭油ヲ包含セス故ニ財産篇其他ニ於テ都テ日用品ト改メタリ財産編第五十五條第八十條第五百二十二條取得篇第三十一條第五十三條第八十條第百九十四條第百八十五條第百三條擔保篇第百四十二條第百三十八條證據篇第百五十九條第百五十六條等ヲ見ルヘシ

第三百三十六條中「代表人」ハ之ヲ代人ト改メ財産篇其他ノ文例ニ從フヘシ（財産篇一九四、三〇四、四五六、五四四、取得篇一四七、二〇一、二〇八、二一六、二六八、擔保篇五二、七四、二一〇、二一五、二二一、二七五、證據篇六、七、九、一七、三五、四二、四六）

第三百三十九條　第一中「物上權」ハ財産篇其他ノ例ニ倣ヒ「物權」ト改ムヘシ

第三百五十三條及ヒ第三百九十二條「算ス」ハ「起算ス」ト改ム

第三百六十二、三、四、條及第三百八十一條　管理人ハ管理者トス

理由　財産篇其他ノ文例ニ依ル

第三百六十三條　公證人ヲシテノ下「動産ノ目錄及ヒ不動産ノ形狀書ヲ檢證セシム可シ」ト改メ及ヒ供託所ヲ官ノ貯金預所ト改ムヘシ

理由　目錄トノミ雖然ト記スルトキハ不動産及ヒ動産モ包蓄スレトモ財産ノ形狀ヲ檢證セシムル場合ニハ明カニ動産ト不動産トニハ之レカ區別ヲ爲サヽルヘカラス既ニ財産篇第四十九條第七十一條第七十二條第七十四條第七十五條其他諸條ニ於テ動産ハ目錄不動産ハ形狀書ト判然其區別ヲ爲シタリ又官ノ貯金預所ト改メタルハ第三百四十七條ノ相續人ト供托トハ異リ管理者ヨリ

日本學術振興會

供託スルモノナレハ人事編第二百七十七條及ヒ第三百十二條後見人保佐人ノ場合ト均シケレハ同條ニ倣ヒ修正シタリ

第三百八十九條　末項削除

理由　人事篇中此規定ヲ見ル能ハサレハ削リタリ

第三百七十條　合意ノ上左ノ如ク改ム

相續財産ノ分割ハ共同分割者カ或ハ抽籤或ハ競賣或ハ合意ヲ以テ云々ト改ム

理由　債權擔保篇第百七十四條ニ倣ヒ修正シタリ

第三百七十一條　「因リ」ノ下左ノ如ク改正ス

死亡者ノ遺産ニ封印ヲ爲シ及ヒ其目錄ヲ作ラシムヘシ

理由　封印ヲ爲ストノミアリテ何物ニ封印ヲ爲ス事ナルカ解シ難ケレハ之ヲ明了ニ爲シタルナリ

第三百七十二條　債權者ノ上ニ相續人又ハヲ加フヘシ

理由　前條ニ於テ相續人ハ封印ヲ請求シ得ルモノナレハ本條モ亦相續人ヨリ請求シ得ヘキモノナラン

第三百七十三條　「渡方」ハ「拂渡」ト改ム

理由　財産編其他ニテハ總テ拂渡差押トアリ

第三百七十四條　「一致セサルトキ」ノ下ニ「又ハ不在者アリタルトキ」ノ數字ヲ加フ

理由　第三百七十條第二ニ於テ不在ノ場合ニハ數列ヲ以テ分割スヘキモノト定メタレハ本條ニモ之ヲ加ヘテハ如何第三百八十條參觀

第三百八十四條　所持人ハ所持者

第三百八十六條ノ請求ハ要求ナリ是レ民事訴訟法ニ於テ請求ト要求トノ區別ヲ爲セシカ故ナリ

第三百八十八條　但書ヲ加フ

日本學術振興會

但民事訴訟法第六百八十六條ノ規定ヲ妨ケス

理由　競賣方法ハ民事訴訟法ニ讓ルヘキモノニシテ同法ニテハ競落人ハ競落ノ決定ニ因テ初メテ所有權ヲ取得スルモノト定メタレハ本條ト少シク齟齬スルニ因リ但書ヲ加ヘテ取除ヲ爲シタリ

第三百九十三、四條ニテハ四分ノ一以上ノ欠損（不足）ニ非サレハ銷除ヲ得ストアリ然ルニ財產編第百三十三條及ヒ取得編第五十條乃至第五十二條ニテハ二十分ノ一ニ及ヘルトキハ契約ノ解除ヲ行フ事ヲ得トアレハ其權衡如何

第四百條　債權者ノ下「受遺者」ヲ加フ

理由　資產分別ノ訴權ハ債權者ト受遺者トノミニ限ルモノナレハ債權者ニシテ請求シ得サル場合ハ受遺者モ亦請求シ得サルモノト爲サヽレハ獨リ債權者ヨリ承諾ヲ得ルモ受遺者ヨリ承諾ヲ得サレハ何タル效ナキモノナレハ特ニ「受遺者」ヲ加ヘタリ

第四百二條　第二項「資產ニ付テモ亦同シ」トハ何ヲ同シト爲ス事歟容易ニ解シ難シ因テ資產ニ付キ相續ノ債權者又ハ受遺者ニ對スル先取特權ヲ有ス」ト明ニ記載スルヲ可トス斯ク明記スルトキハ人或ハ言ハレ資產分別ヲ請求シタル相續ノ債權者カ相續人ノ自己ノ財產ニ對シ權利ヲ有スル事ナカルヘシト之レニ答フルニハ第三百五十一條ヲ以テ辨明スレハ容易ニ了解スルヲ得ヘシ

第四百二條ノ次ニ一條ヲ設ク

第何條　相續ノ債權者又ハ受遺者ノ動產ニ付キ先取特權ハ相續人ノ所爲ニ因リ又ハ其權利ニ基キ且其費用ヲ以テ動產ニ加ヘタル增加及ヒ改良ニ及ハス

理由　第四百五條ハ債權檢保編第百六十五條第五及ヒ第百八十條第百八十一條第百九十二條ヲ削除セシニ因リ其代替ニシテ不

日本學術振興會

動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ場合ナルカ故不動産ノミヲ言ヒタルニ在リ然ルニ相續ノ動産ニ相續人カ其資産ヲ以テ改良ヲ加ヘ現ニ價額ヲ增加シタルトキ例ヘハ金ノ指輪ニ「ダイヤマンド」ヲ嵌入スルカ如キ著シク增價シタルモノヲ一ノ賠償ヲモ爲サスシテ先取特權ノ爲メニ取上ルニ至テハ甚タ權衡其宜ヲ得サレハ動産ハ卽時ノ時效アルニ拘ハラス不動産ニ於ケルカ如ク先取特權ハ其增價及ヒ改良ニ及ハサル事ヲ明記スヘシ然ノミナラス若シ其動産ノ賣主カ未タ代價完濟ヲ得サルトキハ其動産ニ付テハ特別ノ先取特權ヲ有スル事アレハナリ

第四百六條　末項ハ甚タ不完全ナレハ更ニ修正ヲ爲サン事ヲ望ム

理由　第一相續人ノ權利ニ基ク第三者トハ如何ナル事ヲ云フカ蓋シ相續人ノ權利ニ基キ登記ヲ爲シタル第三者ト云フ事ナランカ此點ハ暫ク措キ相續人ノ權利ニ基キ登記ヲ爲スモノニハ所有權ノ移轉ノミニ限ラス或ハ物上擔保タル抵當ニ係ルモノアラン然ルトキハ第三者カ期限ニ拘ハラス相續人ノ權利ニ基キ抵當ヲ公示スレハ先取特權アル相續人ノ債權者ハ適法ニ登記ヲ爲スモ之レニ對抗スル能ハサルモノトセハ甚タ不都合ナラスヤ何ナレハ先取特權ナルモノハ擔保權ニモ讓ヘルカ如ク通常抵當權ニ先ツモノナレハ本條ノ如ク相續人ノ權利ニ基キ登記シタル第三者ニ對抗スル事ヲ得スト定ムルヲ得サル場合アレハナリ

第四百七條　第二項修正

又一方カ他ノ一方ニ對シ物權ノ拋棄又ハ義務ノ免除モ亦タ贈與ヲ爲ス事アリ

理由　物權ノ解釋ハ財産編第二條ニ於テ靜カニ見タリ物權ハ物ノ上ニ有スル權利ノ外他ニナキモノナレハ「物ノ上ニ有スル物權」ノ字ハ不用ナリ人權ノ免除トハ甚タ奇ナリ財産編第三條ニ

日本學術振興會

人權卽チ債權トアレハ債權ヲ免除スルハ己レ自身ヲ免除スルノ外ナシ此免除ハ財產篇第五百四條ニ見タル合意上免除ノ事ニシテ無償ナレハ贈與ヲ成スト云ヒシモノナリ是レ卽チ債務者ノ義務ヲ免除スル事ナリ第四百三十九條第二項ニ債務ノ免除ト記載セシニ非スヤ

第四百九條ハ「ボア」氏起案第千五百十八條ヲ玆ニ設定シタルモ其法文甚タ不完全ナリ更ニ修正ヲ爲サン事ヲ望ム其理由ハ贈與者ハ贈與物ヲ擔保セスト確言スル事ヲ得サルニ在リ如何トナレハ之ヲ擔保スル事アレハナリ

財產篇第三百九十六條ニ有償ニハ當然擔保シ無償ニハ諾約ノ上擔保ストアレハ決シテ擔保セスト云フヘカラス且擔保篇第二百六十九條及ヒ第二百八十八條參觀スヘシ

第四百二十四條　終身年金ノ上ニ「無期又ハ」ノ字ヲ加フ

理由　財產篇其他ノ文例ニ依ル其譯ハ第三百十一條ニ於テ既ニ說明シタリ

同條　用益權ノ下「ノ」ヨリ「權利」マテ削除

理由　用益權ハ概シテ存立時間ノ不確實ナルモノト言フ事ヲ得サルヘシ財產篇第四十四條ニ用益權トハ云々有期ニテ使用及ヒ收益ヲ爲ス權利トアレハ通常期限ヲ定メテ設定スヘキモノナリ若シ期限ヲ定メサルトキハ獨リ用益權ノミナラス地上權上雖モ其存續時間ノ豫メ分ルヘキモノニ非ス（財產篇第百七十七條）唯タ用益權ハ死亡ニ因テ消滅スルカ故期限中ト雖モ死亡ノトキハ消滅スル事アルハ猶ホ賃借權カ賃借物ノ全部滅失スルニ因テ消滅スルカ如キモノナレハ存立時間不確實ナル權利ノ數字ハ削除スル方然ルヘシ又終身年金權ト雖モ場合ニ因テ消滅セサル事アリ（取得篇第百七十七條）

第四百二十五條　配偶者間ニ賣買ヲ爲スヲ得サ　事ハ取得編第三十五條ニ明文アリ又贈與ヲ禁制シ又ハ制限スル事ハ同篇第百八條ニ於テ知ルヲ得ヘキモノナレハ配偶者間ニハ讓渡ヲ爲スヲ得サルヘシ又尊屬親ト卑屬親トノ間ニハ同篇中何タルノ規定ナケレハ賣買ヲ爲シ得ルモノトスヘシ然ルニ本條ニ於テ無償處分ト看做スト揭ケルトキハ有償ノ行爲ヲ爲シ得サルカ如ク爲リ右ノ諸條ト牴觸ヲ免レサルハ本條ハ更ニ修正ヲ要スヘキモノト思考ス

第四百三十四條ハ削除シテハ如何其理由ハ受贈者ハ自己ノ加ヘタル改良ニハ其賠償ヲ得スシテ仍ホ利息マテヲ返還スルハ余リ酷ナラスヤ

第四百三十九條　末項「天然又ハ偶然」ハ財產篇其他ノ文例ニ因リ「意外ノ事又ハ不可抗力」ト改ム（財產篇一四六、一六九、三三五、三九二、四二九、四三二、四三四、四三六、五四〇取得篇一九八、二一一、二三五擔保篇一〇七、二〇一參照）

第四百三十三條　受贈ハ受貯ノ誤

第四百三十六條及ヒ第四百三十七條中ノ「提出」ハ財產篇其他ノ文例ニ因リ「提供」ト改ム

第四百三十八條ノ次キニ滅殺訴權ノ時效期限ヲ定メタハ如何

理由　滅殺訴權ハ有償ノ行爲ト雖モ之ヲ行フモノトセハ善意ノ取得者ニシテ何時其財產ノ敎敕ヲ受ルモ圖リ難ケレハ常ニ其所有權ヲ恃ム事ヲ得サルヘシ因テ成ルヘク短キ期限ヲ定メ其期間ニ非サレハ滅殺訴權ヲ行フ事ヲ得スト爲ストキハ受贈者及ヒ轉獲者ニ於テモ何時其財產ヲ追奪セラルトヤノ患ナカルヘシ

第四百三十九條　第一項「公證人ノ作リタル」削除、何ナレハ「公正證書」トアレハ十分ナリ且他ノ法ニ於テ公正證書ノ上ニ公證人ノ作リタルノ冠字アルヲ見ス又タ公正證書作製ノ事ハ總則篇第四

十六條ニ見ヘタリ

第二項「然レトモ」ノ下ニ「夫婦間中ノ贈與」ヲ加フ

理由　夫婦間中ノ贈與ハ或ハ一方ノ威權ヲ以テ他ノ一方ヲシテ強ヒテ贈與ヲ爲サシムルノ弊ナキヲ免レサレハ之ヲ防カン爲ノ夫又ハ裁判所ノ許可ナクシテ婦ヨリ何時ニテモ其贈與ヲ廢罷スルヲ得ヘキ事ヲ法律ヲ以テ爲許シタルモノナレハ成ルヘク容易ニ廢罷ヲ爲スヲ得セシノ且此廢罷ハ第三者ニ對シテハ効ナキモノト定メタレハ尊々公正證書ヲ作ルヲ要セサルモノト定メタルナリ

第四百四十條「行爲」ハ個ル財產管其他ニ於テ悉皆行爲ヲ例リ只タ有償無償トノミ爲シタリ

第四百四十四條中　其各自ノ爲メニ定メタル方式ニ從ヒ云々トアレトモ其適條ハ婦及ヒ未成年者ノ爲メニハ人事管第七十二條第二百

二十三條及ヒ第二百八十一條ニ其手續ヲ見ルヲ禁治產者ノ爲メ贈與ヲ爲ス事ノ其　條ヲ見ス若シ禁治產者ノ爲メニ贈與ヲ爲スノ條ナキトキハ本條ニ於テ禁治產者ニ於ケル贈與ノ受諾ハ其ノ爲メニ定メタル方式ニ從フト言フ事ヲ得サレハ之ヲ削ラサルヘカラス

第四百四十八條　左ノ如ク改正ス

婦カ贈與ニ因テ得タル不動產ハ其夫ヨリ登記ヲ求ムヘシ若シ其夫カ之ヲ求ルヲ得サルトキハ婦ハ其權利ヲ保護セン爲メ夫ノ認許ナクモ自ラ登記ヲ求ル事ヲ得

理由　本條ハ佛民法第九百四十條ト相對スル條ナレトモ佛民法ノ方其主義龜カニ宜シ何トナレハ佛法ニテハ婦カ第二百十七條ニ依リ其夫ノ承諾ヲ得テ贈與ヲ受ケタルトキハ第九百四十條ニ依リ其夫ヨリ登記ヲ求ムヘキモノトセリ然ルニ夫カ其登記ヲ求メサルトキハ婦ハ登記ノ欠缺ノ爲メ其損失ヲ被フル事アレハ（

第九百四十二條　之ヲ防カン爲メ夫ノ許諾ナクトモ其登記ヲ求ル事ヲ得ヘキ主義ナレハ此案ノ如キ婦ハ夫ノ承諾ヲ要セス當然登記ヲ爲スノ權利アルカ如キノ文意ニ非ス一体婦タルモノニ他人ヨリノ贈與ハ夫ノ認許ヲ得サレハ之ヲ受諾スルヲ得サルノ法ナレハ其登記モ一旦贈與ヲ認諾セシ上ハ夫自ラ登記ヲ爲サヽルノ管ナシ然レトモ夫カ他行其他ノ場合ニシテ自ラ之ヲ爲ス能ハサル場合アリ而シテ之ヲ爲サヽルトキハ其損失ヲ受ル事アルカ爲メ夫ノ認許ヲ得サルモ自ラ登記ヲ爲ス事ヲ許スヘキモノトスヘシ然ラスシテ婦タル者夫ノ意ニ反シテ事ヲ爲スニ至テハ一家ノ和熟ヲ守ル能ハサルヘシ且本條ノ場合ハ婦ノ法律上ノ抵當ヲ登記スルカ如キモノトハ其性質上又ハ權利上ニモ大ニ異リアルモノナレハ婦ニ當然登記ヲ爲スノ權利アルモノト爲スヘカラス

第四百五十二條　「署名」ノ下「捺印」ヲ加フ

理由　總テノ法律中署名ト捺印トハ必ス相連結シテ記セリ是レ署名ノ下ニハ必ス捺印スヘキノ布告アレハナリ

第四百五十三條　「又ハ悪意」ヲ「過失又ハ懈怠」ト改ム、理由、過失又ハ懈怠ト記セハ悪意ハ言ハスシテ明カナリ財産編第五十六條、第八十四條第八十七條第三百六十二條第三百六十八條第三百七十條第三百七十八條第四百六十二條取得編第百三十一條擔保編第百五十一條證據編第六十九條等ハ總テ過失又ハ懈怠トアレハ其文例ニ因テ改正ス

「但」ヲ削リ用益者ヨリ別項ト爲シ左ノ但書ヲ加フ

但用益者カ用益物ノ保存ヲ危フシ又ハ重大ノ毀損ヲ加フルトキハ財産編第百四條ニ從ヒ處分スル事ヲ妨ケス

理由　用益者ハ善良ナル管理者ノ如ク用益物ヲ保存スヘキモノナルニ之レニ毀損ヲ加ヘ又ハ濫用スル等ノ場合ニハ財産編第百

四條ニ依リ用益權ノ廢罷ヲ求メ得ヘキ事ヲ記載セサレハ看ス々々用益物ヲ滅盡シテ用益者ノ無資力タリシトキハ受贈者ハ甚タ不幸ナル結果ヲ受ル事アラン

第三項　削除

理由　用益權ヲ設定スルトキニハ必ス不動産ハ形狀書動産ハ目錄ヲ作ラシムルモノハ（財産編第七十一條）用益權終了ノトキ又ハ用益物消滅ノトキ設定ノ際ニ於ケル同一ノ物ヲ返還シ又ハ同價額ノ賠償ヲ爲サシムルカ爲メナリ而ルニ本條ニ於テ用益者カ用益物ヲ毀損シタルモ用益權終了ノトキニ於ケル價格ニ從フトセハ例ヘハ建坪百坪ノ家屋價額千圓ニ該ルモノニ用益權ヲ設定セシニ用益者之ヲ毀損シテ終了ノトキニハ幾カニ價額百圓ニ減スルモ終了ノトキノ價額ニ依リ賠償ヲ求ムヘク之ニ反シテ動産ナレハ目錄ノ評價ヲ以テ賠償ヲ求ムルヲ得レハ例ヘハ牝牛十

日本學術振興會

頭價額二千圓ニ該ル用益物ヲ用益者ノ不注意ヨリ全數斃死スルトキハ其二千圓ノ賠償ヲ求ムルヲ得ヘシ動産ト不動産トノ間ニ此ノ如キ不權衡ナル處分アルヘキモノニ非ラス且第四百六十二條ニテハ動産ト不動産トニ賠償額ノ區別ナキニ非スヤ、因テ本項ヲ削除スルトキハ形狀書又ハ目錄ニ因テ賠償ヲ求ムル事ヲ得レハ、特ニ之ヲ掲クルヲ要セサルナリ

第四百六十二條　第四「又ハ惡意」ヲ「過失又ハ懈怠」ト改ム財産編其他ノ文例ニ因ル

第四百六十三條　第二「宥免」ヲ「免除」トス

第四百六十九條　左ノ但書ヲ加フ

但其死亡カ賠與ヲ爲シタル日ヨリ三十ケ年ヲ經タルトキハ此限ニ在ラス

理由　壽姻ノ利益ノ爲ノニ賠與ヲ爲ス者ハ夫婦等壽ヲ歓スルカ

日本學術振興會

如ク和合シ且婚姻ヲ永續セシメントスルノ目的ノ外ナカルヘシ然ルトキハ三十个又年以上モ互ニ彼此ヲ起サスシテ婚姻ヲ繼續シタル後不幸ニシテ受贈者カ死亡セシトキ遺存配偶者カ三四十年ヲ經タル後ニ贈與物ヲ取戻サルヽニ至テハ實ニ遺憾千萬ナラスヤ又贈與者ニ於テモ初ノ期而セシ目的ヲ達セシモノナラスヤ、實際決シテ解除ヲ請求シ得ヘキモノニ非スト信ス、然レトモ法律ニ明文ナキトキハ故十个年ヲ經タル後ト雖モ、受贈者カ死亡スルトキハ、贈與者又ハ其相續人ヨリ、直ニ解除訴訟ヲ行フ事アルモ量ラレサレハ法律ニ訴權消滅期限ヲ明記スルヲ可トス

第四百七十四條　制限

理由　本條ハ既ニ迂濶ナル法律ト謂ハサルヘカラス此ノ如キ事ヲ法文ニ掲クルトキハ是ヨリ世上ノ誹謗ヲ招クノ端緒ト爲リ客アルモ亦ナキモノトス何故ナレハ夫婦間ノ贈與ハ或ハ夫ヨ

リ妻ニ贈與シ或ハ妻ヨリ夫ニ贈與スルノ場合ナレハ双方ノ子ナクシテ受贈者タル夫又ハ妻カ死亡シテ贈與者タル妻又ハ夫カ生存スルトキハ夫ヨリ與ヘタル物ハ夫ニ、妻ヨリ與ヘタル物ハ妻ニ、自然ニ復歸スヘキモノナラン、而ルニ若シ之ヲ解除スルモノトセハ、已レニ對シテ解除ヲ請求スルノ外ナシ、第四百六十九條ノ如キハ受贈者カ死亡シタルトキハ夫婦ノ一方ノ生存者ニ對シ、贈ヲ解除スルモノナレハ、適當ナリト雖モ、夫婦間ノ贈與ニ於テハ、毫モ解除ノ要用ナシ、殊ニ相續人ニ至テハ贈與物ハ、既ニ相續財産ト爲ル人ヘキモノヲ、何ノ必用アリテ又何人ニ對シテ、其解除ヲ要求スル、實ニ奇々妙々ナル法律ト謂ハサルヲ得ス又嫡母繼父又ハ繼母ト庶子前夫ノ子又ハ先妻ノ子トノ間ハ人事編ニ於テ親子ニ准シタレハ假令婚カ夫ニ贈與シテ夫死スルトキハ其贈與ヲ先妻ノ子ヲシテ相續セシメストセハ親子ニ

日本學術振興會

権スルニ非スシテ是レ他人親スルモノナレハ已モ亦其子ニ對シ
恭養ヲ仰クヘカラス親子裁判上權利ヲ爭ヒ一家ノ安寧ヲ紊ス
ルニ至ルヘシ旁々本條ハ削除スヘキモノナリ

第四百七十五條　第一項左ノ如ク改ム

夫婦間ノ暗與ハ何時ニテモ之ヲ廢罷スル事ヲ得

理由「婚姻ノ繼續中」ノ文字妥當ナラス却テ人ヲシテ本條ノ
趣意ヲ誤解セシムル事アラン何ナレハ婚姻中トアレハ離婚ノ
場合ニハ廢罷スルヲ得サルヤノ疑アリ且第四百六十六條ニ記載
セル離婚ノ場合ニ當然解除スヘキモノト抵觸アルノ感覺ヲ起サ
シムル事アルヘシ故ニ「繼續中」ノ文字ハ相續人ヲシテ爲サシ
メサル爲メノ老婆心ヨリ出テ、却テ其效ナキモノトス

第四百七十六條　第三者ノ上ニ「善意ヲ以テ取得シタル」ノ字ヲ加
フ何ナレハ惡意ナレハ無論ニ對抗スル事ヲ得ヘシ、「不動產權」
ヲ「物」トシ、所持人ヲ所持者トスヘシ、是レ第四百六十一條ノ
文例ニ依ルノミナラス、總テノ他ノ法ニ於テモ亦然リ

第四百八十條ハ前條ニ記スル間接險與ノ解釋ニ過キサレハ一條ヲ設
クルノ價値ナキモノニ非スヤ、若シ之ヲ揭クルノ必要アリトセハ
夫婦ノ一方カ他ノ一方ニ債務ヲ免除シタルハ、間接ノ險與ヲ成ス
ヘキ事モ、亦揭クヘキモノナラスヤ

第四百八十五條ハ更ニ改正ヲ要ス其理由ハ本條ニ於テ秘密方式ノ遺
言ヲ制限シタルモノハ文字ヲ讀ム事ヲ知ラサル者ハ他人ヲシテ遺
言證書ヲ書サシムルニ其意思ノ外ノ事ヲ書スル事アルモ之ヲ知ラ
サルノ恐レアレハ文字ヲ知ラサル者ノ爲ノニハ秘密式ハ却テ危險
ナルカ故ニ之ヲ禁シタルモノナラン、然ルニ文字ヲ書ク事能ハサ
ル者モ、等シク秘密式ヲ以テ遺言ヲ爲ス事ヲ禁スルハ、甚タ酷ナ
リ、何ナレハ文書ヲ書ク事能ハサル者ニハ、博學者タルモ戰爭等

日本學術振興會

ニテ、不具ト爲リ、兩手ヲ使用シ能ハサルモノアルヘシ、此ノ如キ者ノ爲メニハ第四百八十四條第四號ノ如ク公證人タル者、其職務ヲ以テ立會人ノ面前ニ於テ、封紙ニ自書及ヒ捺印シ能ハサルノ原因ヲ記シ、之ニ役印ヲ押捺セシムルトキハ、秘密式ニ之ヲ作ルモ決シテ危險ナカルヘシ、因テ秘密式遺言書ノ禁制ハ、只タ文字ヲ讀ム事ノ能力ナキ者ノミニ、止ノ、更ニ改正ヲ爲スヘシ

第四百八十七條　自書以下「トキハ」マテヲ「自書ニ係リ且其實印アルトキハ」ト改ム

理由　本條ノ如ク自書ノミヲ必要トスルトキハ其實印ハ他人ノ印タルモ又ハ僞印タルモ其遺言ハ有效ナリトセハ第四百八十二條ニ於ケル自筆ノ遺言證書ハ自書シテ捺印シタルニ非サレハ其效ヲ有セサルト記セシモノト抵觸ヲ免レサレハ實印ヲ加ヘタリ

第四百八十九條　第二項ハ削除スヘシ

理由　敵國ニ俘虜ト爲ルヘキ場合ヲ豫シメ慮リテ法ヲ設クルトキハ賣奴（スレーブ）ト爲リテ外國ニ虜役セラルヽ場合モ定メサルヘカラス然ノミナラス敵國ニ俘虜タル者カ日本語ニ通スル證人二人ヲ求ルヲ得ヘキモノニ非ス昔日豪壽征伐ノ際若シ俘虜ト爲リタル者カ同島ニ於テ日本語ニ通スル者三人ヲ求ル事ハ決シテ爲シ能ハサルモノナラン若シ之ヲ求ルヲ得ルモノトスルモ文字ヲ讀書スル事ヲ得サルモノナルトキハ何ノ爲メニ必要ナルヤヲ知ラス且第五百條ニ於テ此證人ヲシテ自署又ハ捺印セシムル事ヲ得ヘキモノナルヤ否實ニ本項ノ如キハ吾人ヲシテ奇異ノ感覺ヲ起サシムルモノト謂フヘシ

第四百九十條ノ次キニ一條ヲ設ケ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレ拘禁中ニアルモノハ典獄及ヒ書記一人ノ前ニ於テ遺言書ヲ作ル事ヲ得ヘキ事ヲ記載スヘシ何ナレハ刑期中ノ者ハ假令禁治產ノ附加スルモノ

日本學術振興會

ト雖モ遺言ヲ以テ其財産ヲ處分スル事ヲ許シタレハ（人事編第三百三十三條）其方法ノ設ケナカルヘカラサレハナリ

第四百八十四條　第二號第三號以下諸條ニ遺言書トアルハ總テ遺言證書トスヘシ

理由　第四百八十一條ヨリ第四百八十四條マテハ遺言證書トアリ同條ヨリ以後ノ諸條ニ於テハ「證」ノ一字ヲ略シ遺言書トノミ記セリ一字ヲ略シテ何タルノ利益アルモノニ非サレハ一樣ニ遺言證書ト爲スヘシ

第四百九十五條第四百九十六條中

住所ノ下「又ハ居所」ヲ加フヘシ

第五百八條　第二項「意外ノ變災」ハ「意外ノ事」ト改ム

理由　第四百三十九條ニアリ

第五百十四條　不動産權ノ「權」削ル財産編每ニ其文例ナシ

第五百十四條　三十日ノ期間ハ短キニ過ク之ヲ六ケ月ニ延長スヘシ

理由　第四百四條ニ於テハ受遺者カ財産分別ニ基ク先取特權ヲ有スルニハ相續發開ヨリ六ケ月内ニ登記スレハ第三者ニ對抗スルヲ得ヘキ事ヲ定メタリ本條ニ於テハ設定ヲ知リタル時ヨリトハアレトモ第四百四條ト比準スルニ三十日ハ甚タ短カシ因テ試ニ三ケ月ト爲セリ

第五百十七條　代表人ハ代人トス

理由　前ニ見タリ

第五百十九條　提出ハ提供トス

理由　前ニアリ

第五百十八條中「以下」ヲ削リ「及ヒ第四百五十八條」ト改ム

理由ハ贈與ノ場合ノ引用ハ第四百五十八條以後ニハ見ヘサレハ

「以下」ノ二字ヲ削リタリ

第五百三十條ニ解除條件ノ成就シタルトキノ文字ヲ加ヘテハ如何

理由　第五百四條及ヒ第五百八條ニ於テ解除條件ヲ以テ遺言ヲ爲スヘキ事ノ明文アレハ解除條件ヲ以テ遺言ヲ爲シタルモノガ其條件ノ成就シタルトキハ財產編第四百九條ニ準ヘルカ如ク合意以前ノ位地ニ復セシムルモノナレハ其遺言ハ卽チ其效ヲ失フモノニ非スヤ

同條　第之ニ法律ニ依リテ沒收ヲ宣告セラレ又ハ公用ノ爲メ徵收セラレタルトキノ數字ヲ加ヘテハ如何

理由　沒收又ハ公用徵收ハ之ヲ物ノ滅盡ト言フ事ヲ得サレハナリ

第七　不可抗力ノ上「意外ノ事又ハ」ヲ加フ財產編其他ノ文例ナリ

第五百三十四條　第一項及ヒ以下左ノ如ク改正ス

公正證書又ハ私署證書ヲ以テ爲シタルトキニ非サレハ成立セス

理由　公證人ノミニ作ラシムル事ハ到底爲シ能ハサルモノノミナラス手續ノ煩勞ヲ要スルトキハ其契約ヲ結フ事ヲ厭ヒ終ニハ離有ヲ之ヲ爲サントスルノ結果ヲ生スヘシ因テ夫婦間ノ事ハ社會ノ秩序ニ關セサル限リハ成ルヘク各自ノ適宜ニ任シ公正證書ナリトモ私署證書ナリトモ其欲スル所ニ從テ作ラシムヘシ是レ畢竟各自カ後日ノ證據ト爲スニ過キサルモノナレハナリ

第五百三十五條　公證人ヲ「公正證書又ハ私署證書ヲ以テ之ヲ爲シ」ト改ム理由前條ニ同シ

第五百三十七條　意屬親ノ下「戶主」ヲ加フ

理由　人事編ニ於テ戶主ハ其家族ノ未成年者ノ婚姻ヲ爲スニ付キ許諾ヲ與フヘキ場合アレハナリ

第五百四十一條　三行目ノ「婚姻中」ハ贅文ニ屬ス

日本學術振興會

第五百四十五條　「停止」ノ下「スル事ヲ得」ト改ノ「公示ノ處分ヲ裁判所ニ請求スル事」ヲ削ル

理由　婦カ家事管理ヲ委用セシヲ以テ夫タル者カ其婦ノ家事管理停止ノ事ヲ世ニ公ケニセン事ヲ裁判所ニ請求スルトキハ己レノ恥ヲ世上ニ公告スルニ殊ナラス又婦カ過度ノ債務ヲ生セシムルヲ夫カ之ヲ知ラス又ハ之ヲ制スル能ハサルハ夫ニ於テモ多少己レニ過ナキニシモ非ス因テ此ノ如キ私事ヲ許クカ如キ事ハ暫ク法律ニ揭ケサルヲ善トス

第五百四十七條　第二項削除

理由　入夫ハ婦ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ無償ニテ處分スルヲ得サルモ戸主タル婦ハ却テ入夫ノ承諾ヲ得スシテ自ラ之ヲ爲ス事ヲ得ルカ如シ然ノミナラス夫タル者カ一々婦ノ承諾ヲ得サレハ其收益ヲ他人ニ與フルヲ得ストセハ甚タ不都合ナラスヤ例ヘハ夫タル者官職ヲ奉シ自ラ俸給ヲ得テ妻子ヲ養育スル身トシテ其兄弟ノ爲ノニ若干ノ金圓ヲ與ヘント欲スルモ婦ノ承諾ヲ得サレハ之ヲ爲ス事ヲ得スト是レ實ニ無當ナラサル事ニ非スヤ

第五百四十八條　第一項二行目又ヨリ得マテ十八字削除

理由　入夫タリトモ夫ハ夫ナリ卽チ婦ノ管理者ナリ又タ戸主タリトモ婦ハ婦ナリ卽チ無能力者ナリ然ルニ夫タル者カ自己ノ固有ノ財產ヲ處分スルニ其無能力者タル婦ノ承諾ヲ得サレハ爲ス事ヲ得サルトハ實ニ男子タル者天賦ノ男強女弱ノ權ハ何處ニアルカ、凡ソ男子タル者カ己レノ物ヲ己レカ願意ニ爲スヲ得スシテ一一己レノ妻ニ承諾ヲ請フヘシトセハ如何ナル鼻垂蟹流ノ者タリトモ自ラ男子タル事ヲ知ル者ハ死スルモ決シテ入夫タラサルヘシ、若シ法律ヲ以テ男權ヲシテ女權ニ劣ラシムル事此ノ如ク卑且陋ナラシムレハ、悉クハ世界無二、古今未曾有ノ惡法ナ

日本學術振興會

リトノ譲ヲ受ケン是レ卽チ婦ノ承諾以下ヲ削リタル所以ナリ

第五百五十條　削除

理由　本條ハ婦カ承諾シ其夫ヲシテ己レノ特有財産ヲ賣却セシノシモノナレハ其代價ハ卽チ己レノ特有財産ナリ夫ハ之ヲ管理スルノミニシテ之ヲ處分スルノ權ハ婦ニ在リ夫カ之ヲ復用スルモ又ハ婦ノ爲ノニ利用スルモ婦ノ承諾ヲ得スシテ爲ス事ヲ得ヘカラサルモノナリ故ニ夫カ其代價ヲ返還セサルトキハ婦ノ時有財産ヲ私借シタルモノナラン婦カ其夫ノ非ヲ許キ強テ之ヲ取戻サントスルトキハ此場合ニハ婦ニ法律上ノ抵當權アレハ（擔保編第二百四條及ヒ第二百十六條參觀スヘシ）裁判上之ヲ請求スルヲ得ヘシ

何ソ必シモ本條ヲ設クルノ必要アランヤ

第五百五十一條「特有財産」ノ下「ヲ賣却シテ」ノ數字ヲ加フ

理由　前條ヲ削リタル結果ナリ

第五百五十三條　第二行目「又入夫カ自己ノ特有財産ヲ危險ニ置キ」

削除

理由　夫トシテ己レノ財産ヲ其婦ノ爲メニ管理セラルヽニ至テハ自ラ無能力者トナリタルナリ而ルニ入夫タル者ハ人事編第三百六十六條ニ於テ戸主ヲ代表シテ其權ヲ行フトアリ己レノ財産ヲ自ラ管理スル事ヲ得サル者ニシテ何ヲ以テ戸主タルノ權ヲ行フヲ得ヘキヤ此兩條相齟齬スル實ニ甚シキモノト謂フヘシ

第五百五十五條　削除

理由　夫婦タル者互相間ノ關係ニ於テハ權利義務ノ相反スル事アルモ他人ニ對シテハ同心同体ト看做サヽレハ一家ヲ經營スル事能ハサルモノナラン故ニ實際ハ夫ノ負ヒタル債務ハ婦モ亦之ヲ負ヒ、婦ノ負ヒタルモノハ、夫モ亦之ヲ負ヒタルモノトセリ

日本學術振興會

之ニ反シ夫カ債權ヲ有スレハ婦モ亦之ヲ有シ、婦カ之ヲ有スレハ、夫モ亦有スルモノト看做セリ、現ニ金錢貸借上夫婦證書ニ連署シテ金ヲ借リタル事ヲ聞カス又金ヲ貸ス者モ夫婦連名ニテ貸シタル事ヲ知ラス殊ニ婦ハ人事編第七十二條ニ於テ無能力者トシ其要件ハ有償無償ノ讓渡、借財ヲ爲シ、元本ヲ領收シ、訴訟ヲ起ス等ハ其夫ノ許可ヲ得サレハ爲ス事ヲ得サルモノトセリ若シ夫ノ許可ナクシテ婦ノ爲シタル行爲ハ之ヲ銷除スル事ヲ得レハ金圓ヲ貸ス者ハ業トシテ危險ヲ慮リ鄭重ヲ崇ヘハ此法頒布ノ後ハ必ス夫婦ノ一方ニ貸サンヨリハ寧ロ夫婦連名宛ニテ貸スノ安穩ナルニ若カストセン而ルノミナラス夫婦ノ一方ニ貸シタルトキハ滿期ニ至ルモ辨濟スヘキ財產ノ不足ナルトキハ其者ノ特有財產ハ他ニ之ヲ積堆スルモ之ヲ辨濟ニ差押フル事ヲ得ス唯タ虛有權ノミヲ有スルモノトセハ其夫婦ノ一方カ死スルカ又ハ

日本學術振興會

離婚セン事ヲ俟ツノ外ナシ此ノ如キ困難ニシテ且實際ニ悖戻スル法ヲ設ケ金融ノ必迫ヲ謬スカ如キ事ハ實ニ無用ニシテ毫利モナキモノト信スレハ之ヲ削除シタリ

第五百五十六條　削除

理由　本條ハ余輩困難ナル法ト謂ハサルヲ得ス第一入夫婚姻ノ後年月ヲ經タルカ又ハ他國ニ在テ貸借スルトキハ其人ニ入夫タルノ屑書ナキモナレハ入夫タルヤ否ヲ知ルニ困却ナル事ト第二ニハ財產管理ノ僞ノニ負債シタルヤ否ヲ證スルノ困却ナル事是ナリ然ノミナラス婦ハ人事編ニ記セル如ク無能力者ニシテ入夫ハ戶主ヲ代表スル者ナリ其代表者ニ金ヲ貸シタルモノヲ之ニ對シ請求セスシテ却テ訴訟無能力者（民事訴訟法）タル婦ニ對シ裁判上之ヲ請求スルノ道理甚タ解シ難シ且夫レノミナラス人事編ニ記載セルノ主義ニ大ニ異ル事ナキヤ

日本學術振興會